

2025年3月期(第41期) 第3四半期 決算資料(詳細版)



2025年2月14日
テクマトリックス株式会社(コード:3762)



1. 第3四半期業績報告
2. 2025年3月期 連結業績予想
3. 事業活動トピックス



1. 第3四半期 業績報告



- 主要経営指標(連結)

売上収益

+22.9%

前年同期比

46,730百万円

営業利益

+25.4%

前年同期比

4,795百万円

受注高

+21.5%

前年同期比

60,734百万円

受注残高

+28.7%

前年同期比

84,175百万円

ストック比率

75.9%

単体+PSP

連続増収記録

22期連続

2024年3月期末

NOBORIに画像を
保管している患者数

5,733万人

NOBORIに保存
している検査件数

3.7億検査



- 売上収益、営業利益、税引前利益、親会社の所有者に帰属する当期利益のいずれも3Qとしては**過去最高**を記録。

(百万円)

	FY2023 3Q	FY2024 3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上収益	38,008	46,730	+8,721	+22.9%
営業利益	3,824	4,795	+971	+25.4%
(営業利益率)	(10.1%)	(10.3%)		(+0.2P)
税引前利益	3,812	4,535	+722	+19.0%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,344	2,896	+552	+23.5%



【特殊要因概要】

①退職給付債務の評価額変更(情報基盤/アプリ・サ)

就業規則の変更(定年延長)に伴い
退職給付債務の評価額を変更



退職給付引当金戻入(利益方向) **+173百万円**

②Firmus社株式取得関連(情報基盤)

Firmus社の株式取得に伴い
関連費用及び期間損益を計上



期間損益 (2024年11~12月分)	売上: +599百万円 営業利益: +205百万円
株式取得関連費用(一時費用)	▲189百万円
無形固定資産償却費用 (2024年11~12月分)	▲30百万円

【[参考]特殊要因控除後 連結業績】

(百万円)

	FY2023 3Q	FY2024 3Q 実績	FY2024 3Q 特殊要因 控除後	前年同期比	
				増減額	増減率
売上収益	38,008	46,730	46,131	+8,122	+21.4%
営業利益	3,824	4,795	4,635	+811	+21.2%
(営業利益率)	(10.1%)	(10.3%)	(10.0%)		(+0.1P)



2025年3月期 3Q 連結業績(セグメント別)

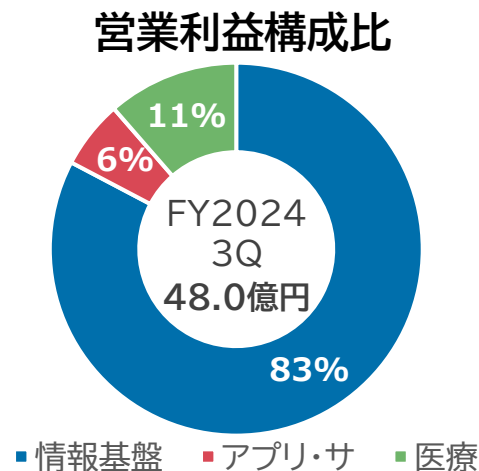
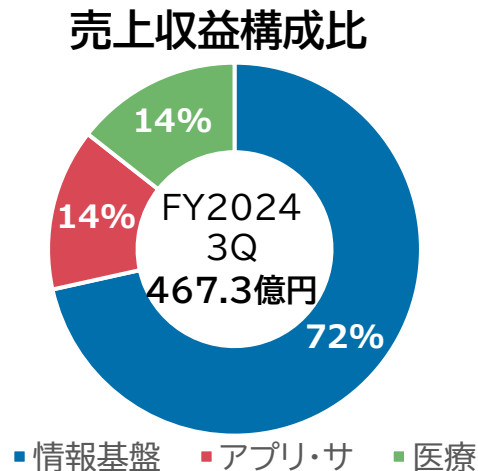
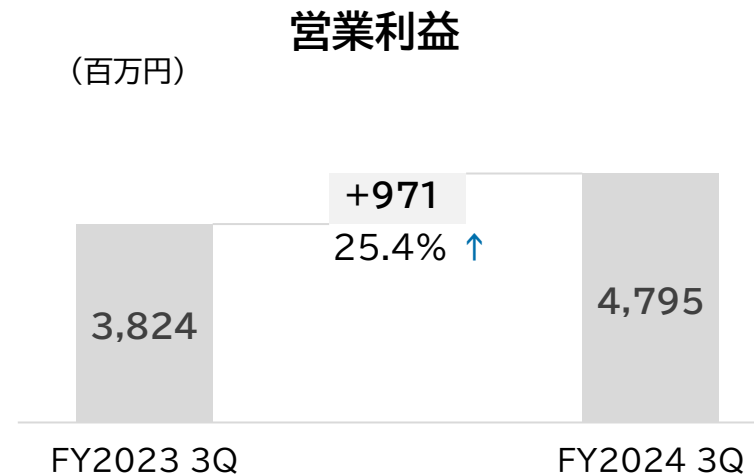
(百万円)

	FY2023 3Q			FY2024 3Q			前年同期比	
	実績	構成比	利益率	実績	構成比	利益率	増減額	増減率
売上収益	38,008	100.0%		46,730	100.0%		+8,721	+22.9%
情報基盤	25,326	66.6%		33,426	71.5%		+8,100	+32.0%
アプリ・サ	5,872	15.4%		6,570	14.1%		+698	+11.9%
医療システム	6,810	17.9%		6,733	14.4%		△76	△1.1%
営業利益	3,824	100.0%	10.1%	4,795	100.0%	10.3%	+971	+25.4%
情報基盤	2,781	72.7%	11.0%	3,965	82.7%	11.9%	+1,184	+42.6%
アプリ・サ	147	3.9%	2.5%	282	5.9%	4.3%	+135	+91.5%
医療システム	895	23.4%	13.1%	546	11.4%	8.1%	△348	△38.9%



2025年3月期3Q 連結業績

情報基盤事業:引き続きクラウド型セキュリティ製品の需要が全体の業績を牽引。
アプリ・サ事業:ストックビジネス化の進展が業績に貢献し、CRM, SE, EdTech分野において売上が前年同期比で2桁成長。
医療システム事業:事業拡大に向けた人件費や積極的な開発投資が拡大。

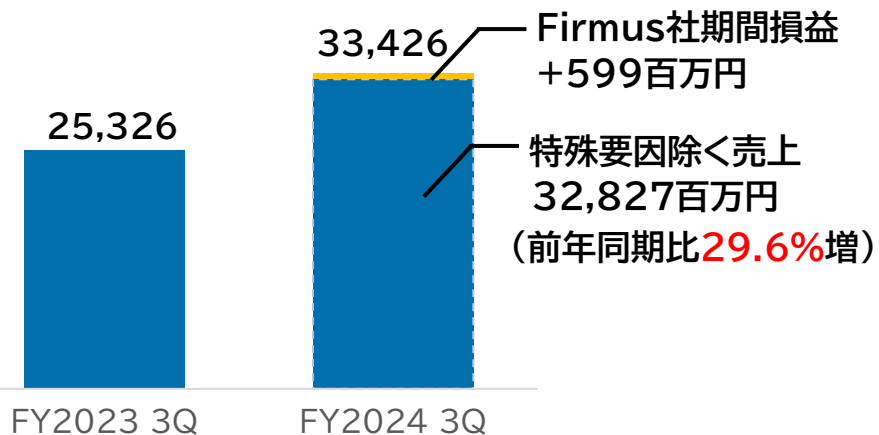


※事業略称
 SE:ソフトウェア品質保証
 BS:ビジネスソリューション
 CRM:コンタクトセンター・コールセンター
 EdTech:教育

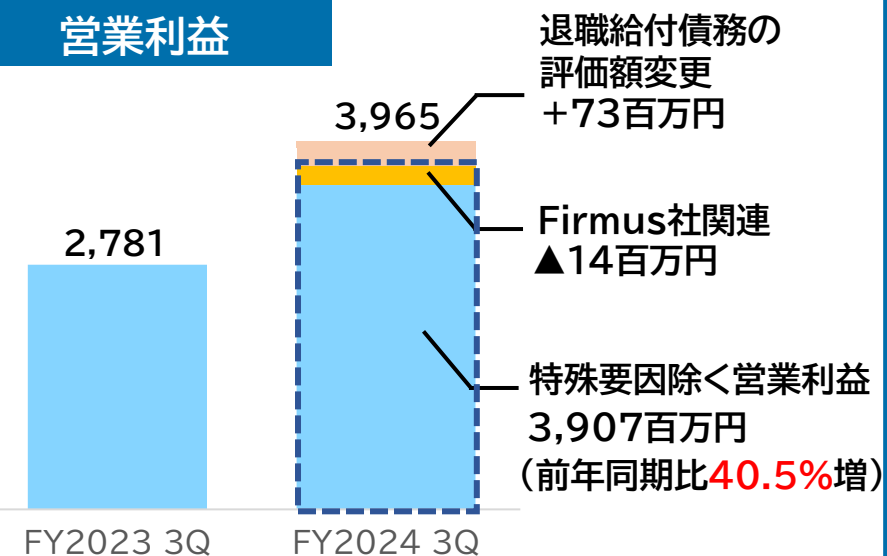


売上収益

(百万円)



営業利益



売上収益・営業利益は3Qとしては**過去最高**を記録。

前年同期比

売上収益

+ **8,100** 百万円 + **32.0** %

- (+) 次世代ファイアウォールの大型案件を計上(2Q計上)
- (+) 連結子会社クロス・ヘッドがストレージの大型案件を計上(2Q計上)
- (+) クラウド型セキュリティ対策製品(サブスクリプション)は引き続き好調
- (+) 次世代型メールセキュリティソリューションの需要が好調
- (+) 複数年契約のサブスクリプションの積み上がり
- (+) Firmus社期間損益(2024年11~12月)計上

営業利益

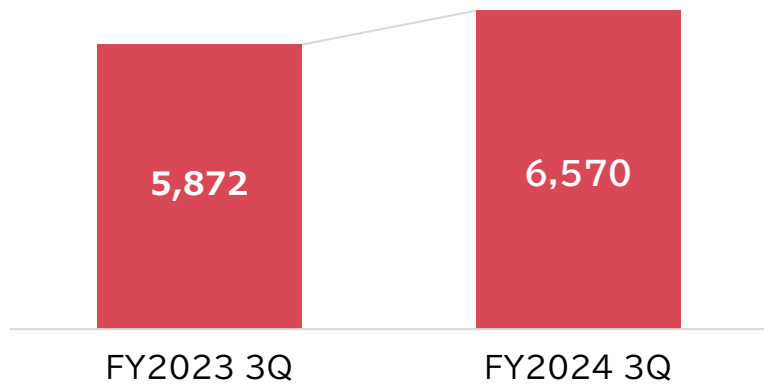
+ **1,184** 百万円 + **42.6** %

- (+) 退職給付債務の評価額変更に伴う引当金戻入
- (+) 採算性を意識した営業活動の徹底
- (-) Firmus社関連費用(期間損益+174百万円、取得関連費用▲189百万円)

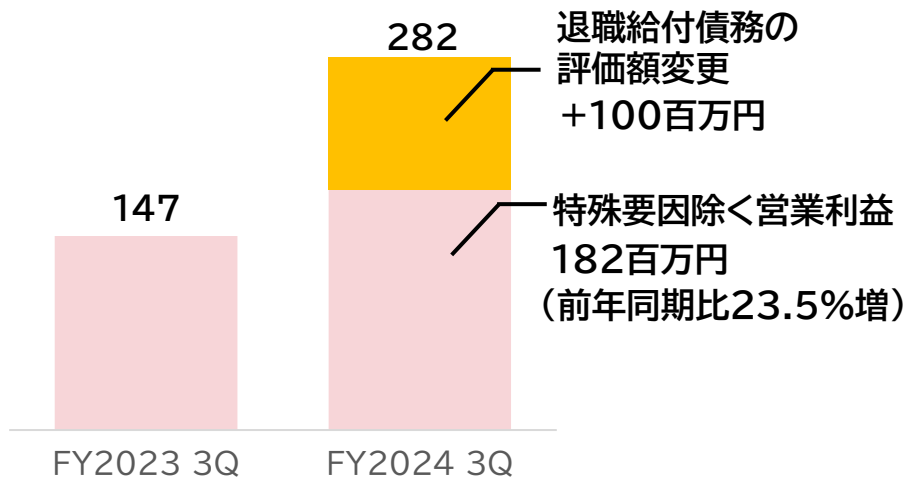


売上収益

(百万円)



営業利益



売上収益・営業利益は前年比で増加。

前年同期比

売上収益

+ 698 百万円 + 11.9 %

- (+) 企業向けシステムや組込ソフトウェアの品質を担保するテストツールの需要が好調(SE)
- (+) サブスクリプション化の進展によりストックが積み上がり、売上伸長。(CRM、SE)
- (+) 基盤関連の売上を計上(教育)(2Q計上)

営業利益

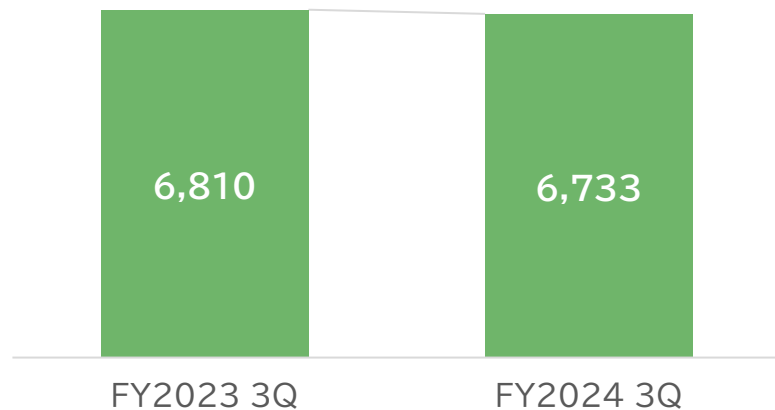
+ 135 百万円 + 91.5 %

- (+)退職給付債務の評価額変更に伴う引当金戻入
- (-)ビジネスの拡大による人件費・販管費の増加
- (-)前期までの戦略的な投資により償却費用が増加(教育)

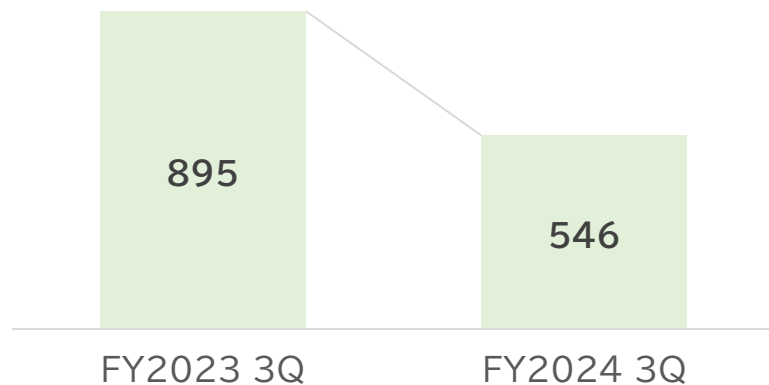


売上収益

(百万円)



営業利益



売上収益・営業利益は前年比で減少。

前年同期比

売上収益

▲76 百万円 ▲1.1 %

- (+) 事業統合したPSPの医用画像管理システム (PACS)は堅調。
- (+) 医療情報クラウドサービス・PHRアプリ「NOBORI」が順調。
- (-) 予定されていたオンプレミスの更新案件の期ズレが発生。
- (-) クラウドシフトが徐々に進行

営業利益

▲348 百万円 ▲38.9 %

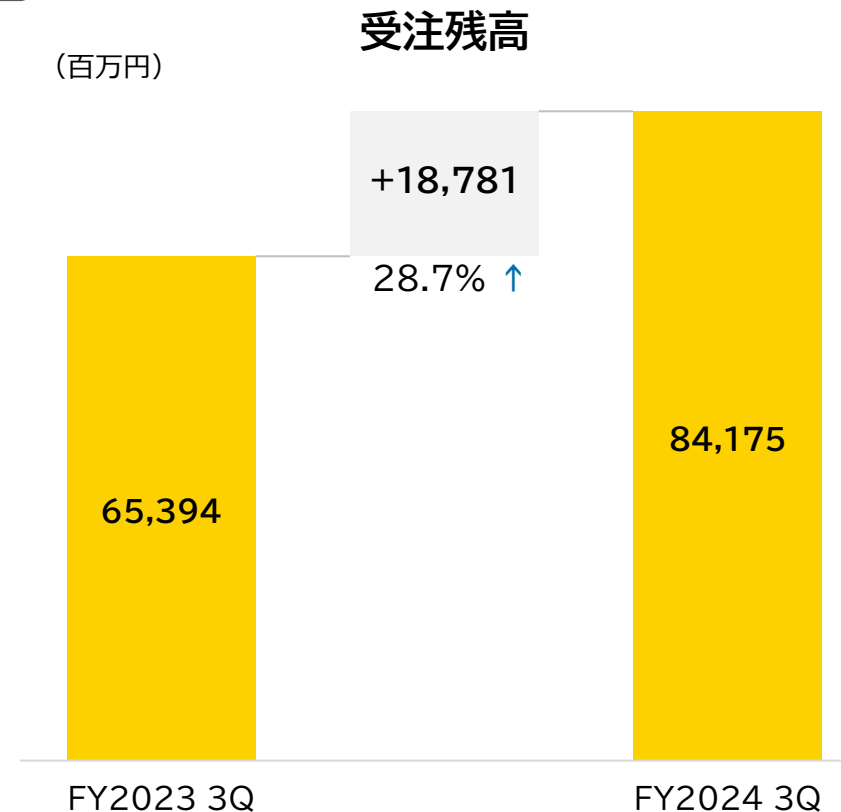
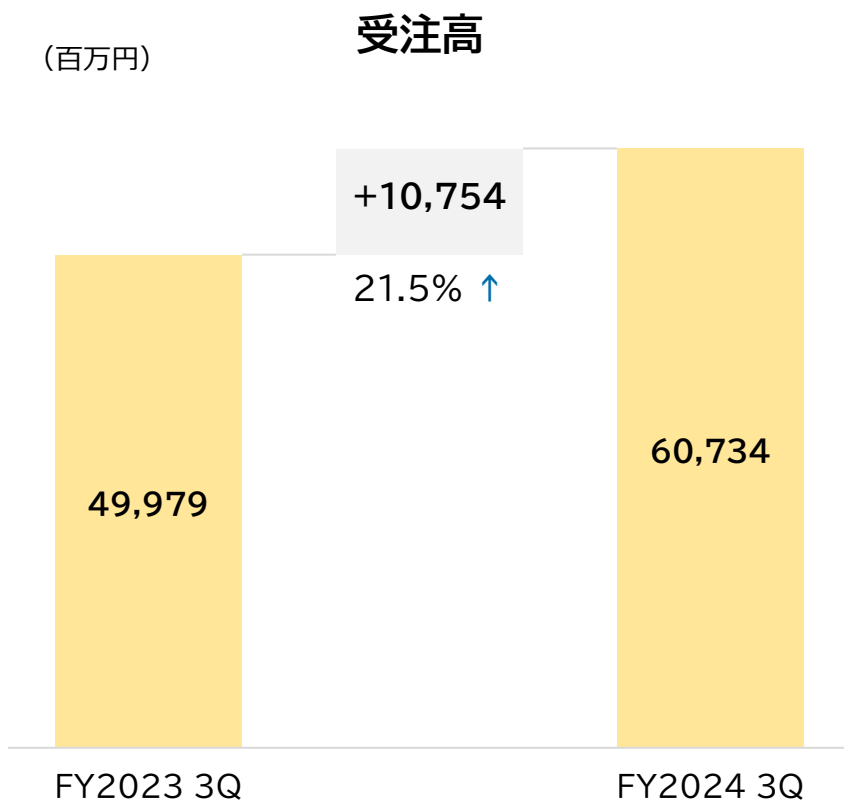
- (+) 前期に発生した処遇制度統一に係る費用等の反動(1Q:98百万円)
- (-) 増員による販管費増加
- (-) 積極的な開発投資による販管費増加



2025年3月期 3Q 受注高と受注残高(連結)

- 連結受注高は、前年比で順調に増加。
- 連結受注残高は、情報基盤事業を中心に前年比で増加。
- 情報基盤事業、アプリ・サ事業、医療システム事業のいずれも着実に積み上げ。
Firmus社:受注高422百万円、受注残高1,464百万円計上。

全社合計





2025年3月期 3Q セグメント別 受注高(連結)

情報基盤事業:クラウド型セキュリティ製品の大型案件(新規・更新)により伸長。Firmus社:受注高422百万円計上。

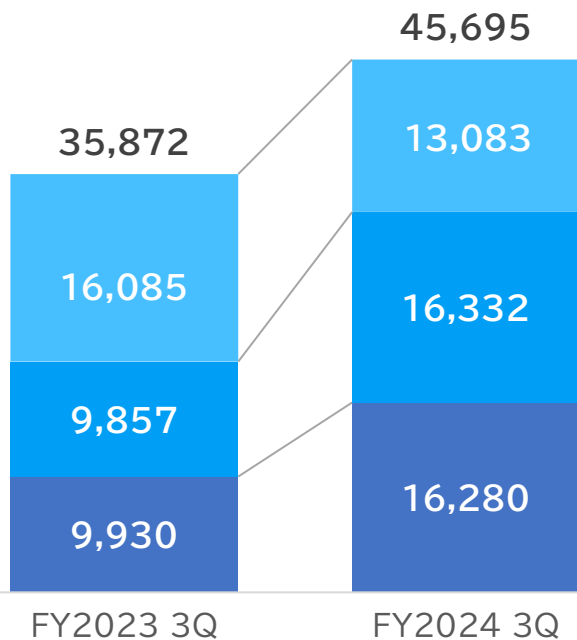
アプリケーション・サービス事業: CRM分野・ソフトウェア品質保証分野を中心にいずれの分野も好調。

医療システム事業: 医用画像管理システム(PACS)の受注は堅調に推移し計画を超過。

情報基盤事業

(百万円)

+27.4% ↑

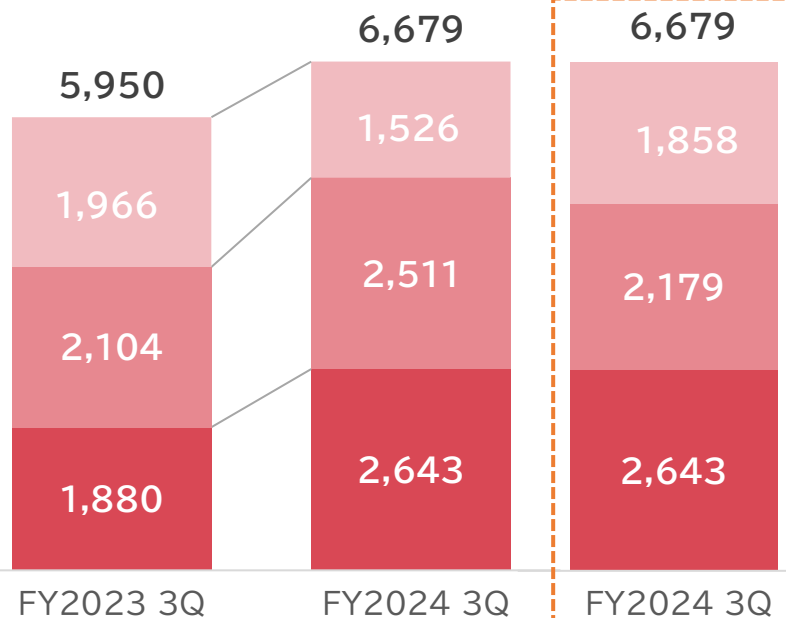


■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q

アプリケーション・サービス事業

(百万円)

12.3% ↑



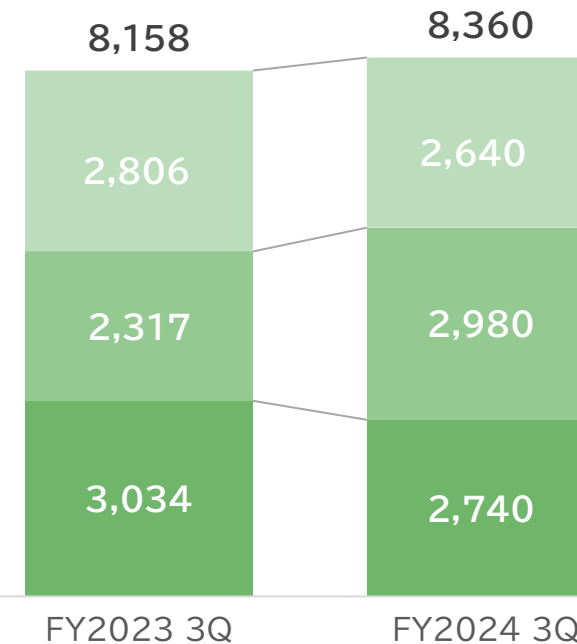
■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q

*参考
代理人取引考慮後

医療システム事業

(百万円)

2.5% ↑

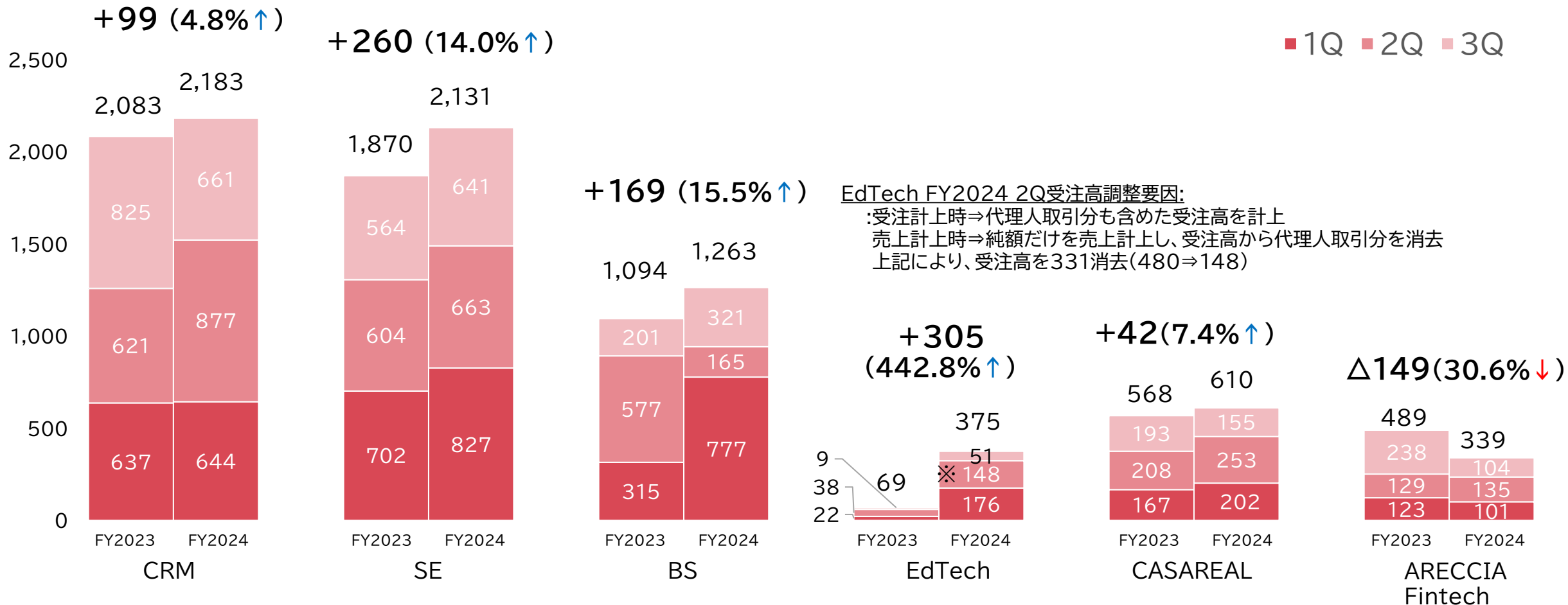


■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q



2025年3月期 3Q アプリケーション・サービス事業 分野別 受注高

(百万円)



※事業略称

CRM:コンタクトセンター・コールセンター、SE:ソフトウェア品質保証

BS:ビジネスソリューション、EdTech:教育

※事業部間の連結調整前の数値 13

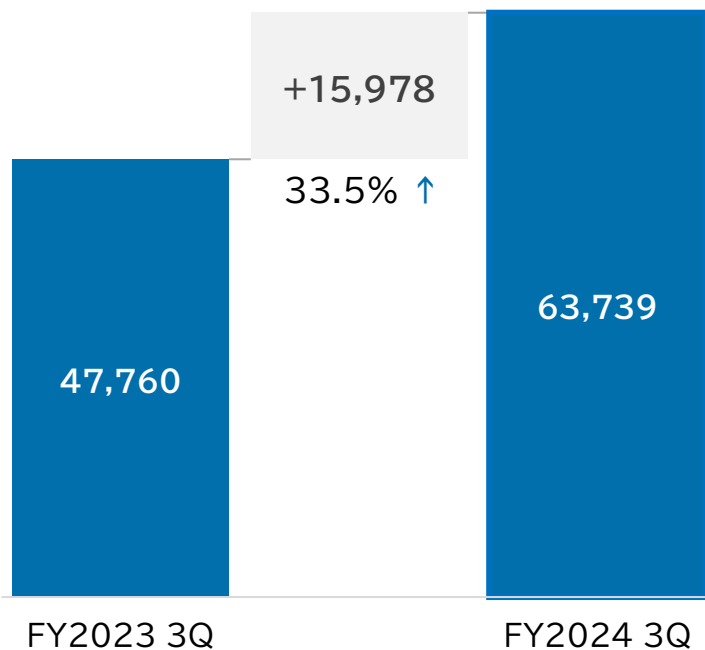


2025年3月期 3Q セグメント別 受注残高(連結)

- サブスクリプション化(ストックビジネス強化)により、増加傾向。

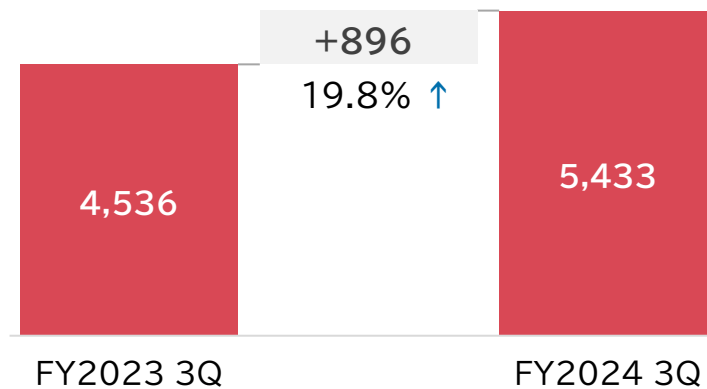
情報基盤事業

(百万円)



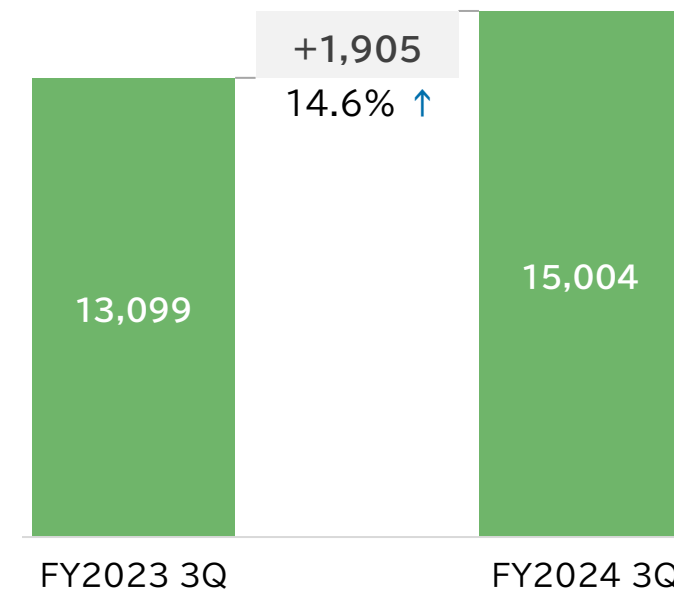
アプリケーション・サービス事業

(百万円)



医療システム事業

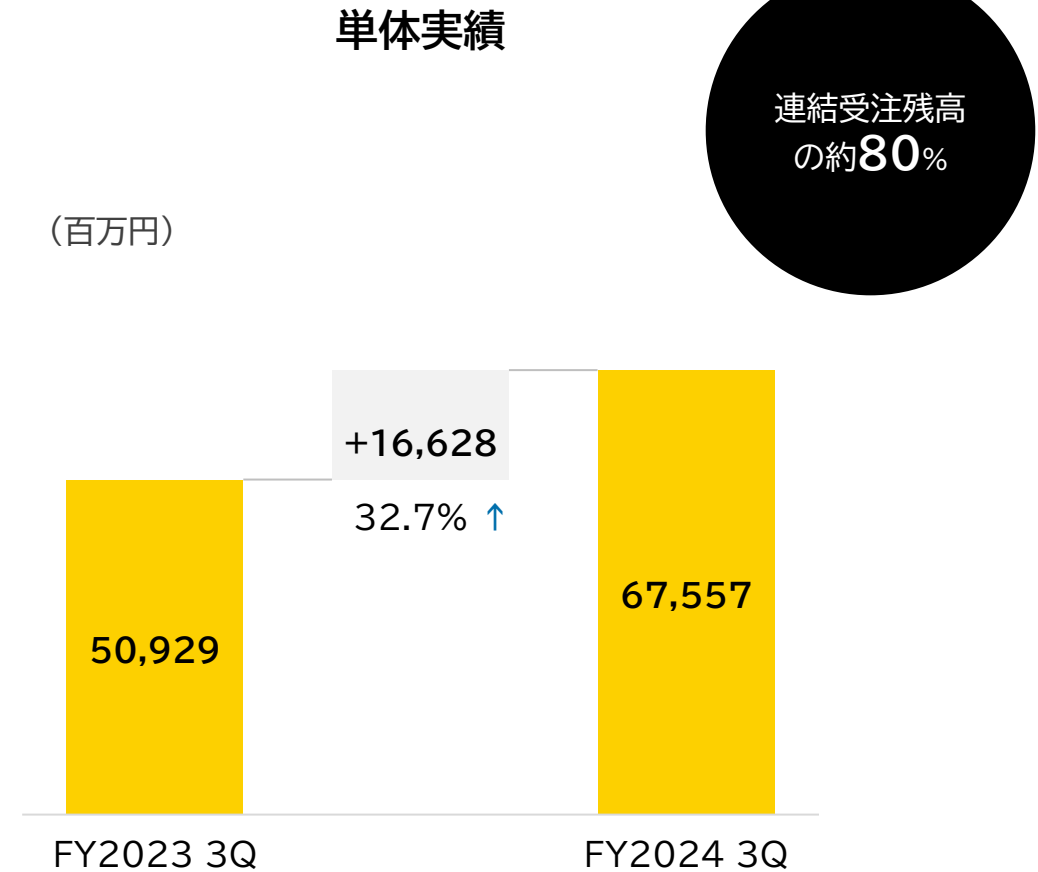
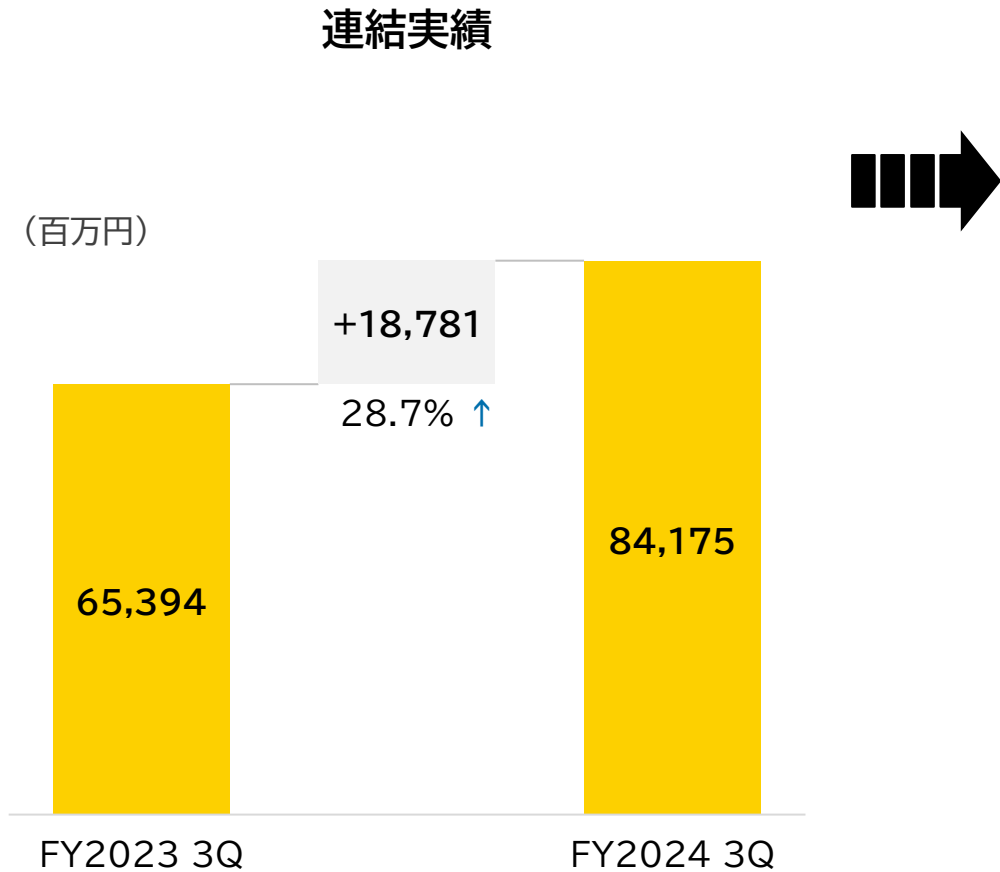
(百万円)





2025年3月期 3Q 受注残高の状況(単体)

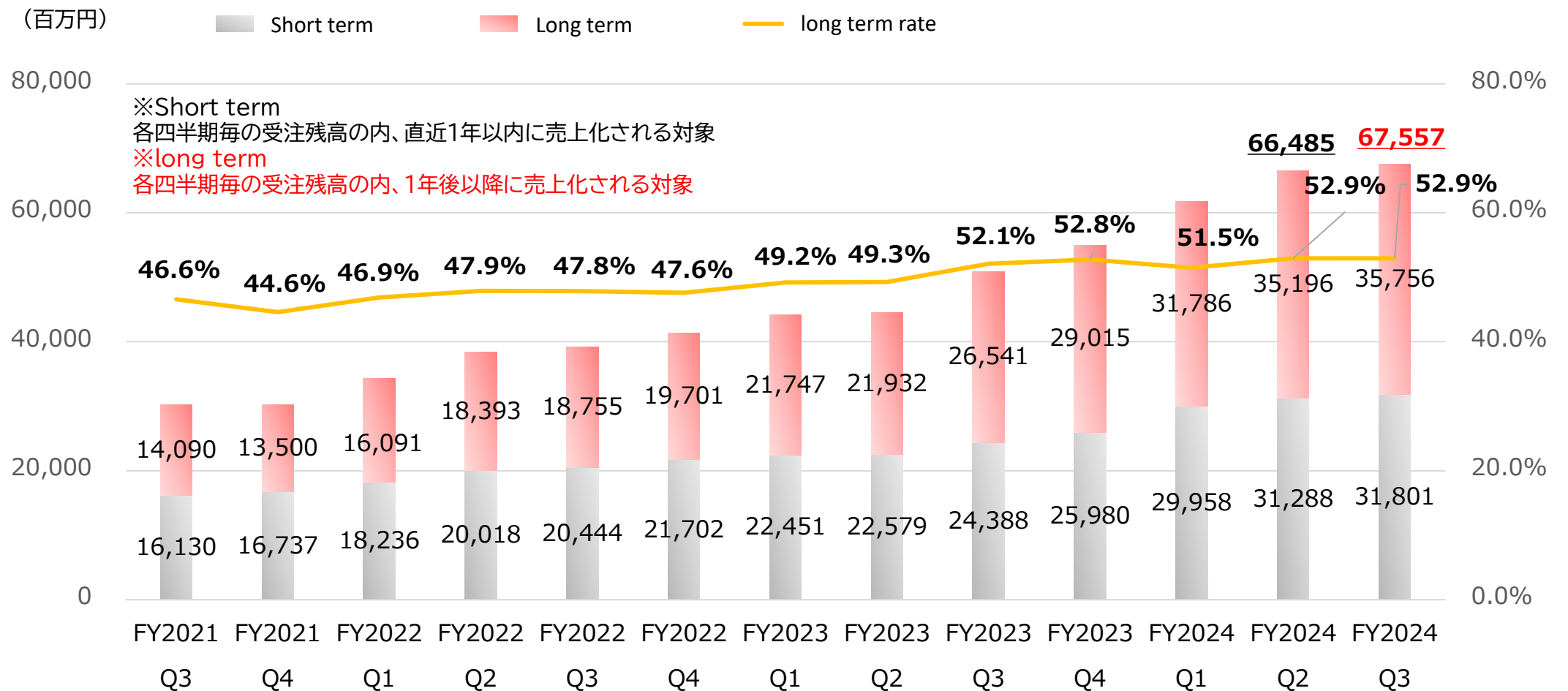
- テクマトリックス単体での受注残高の状況は以下のとおりです。





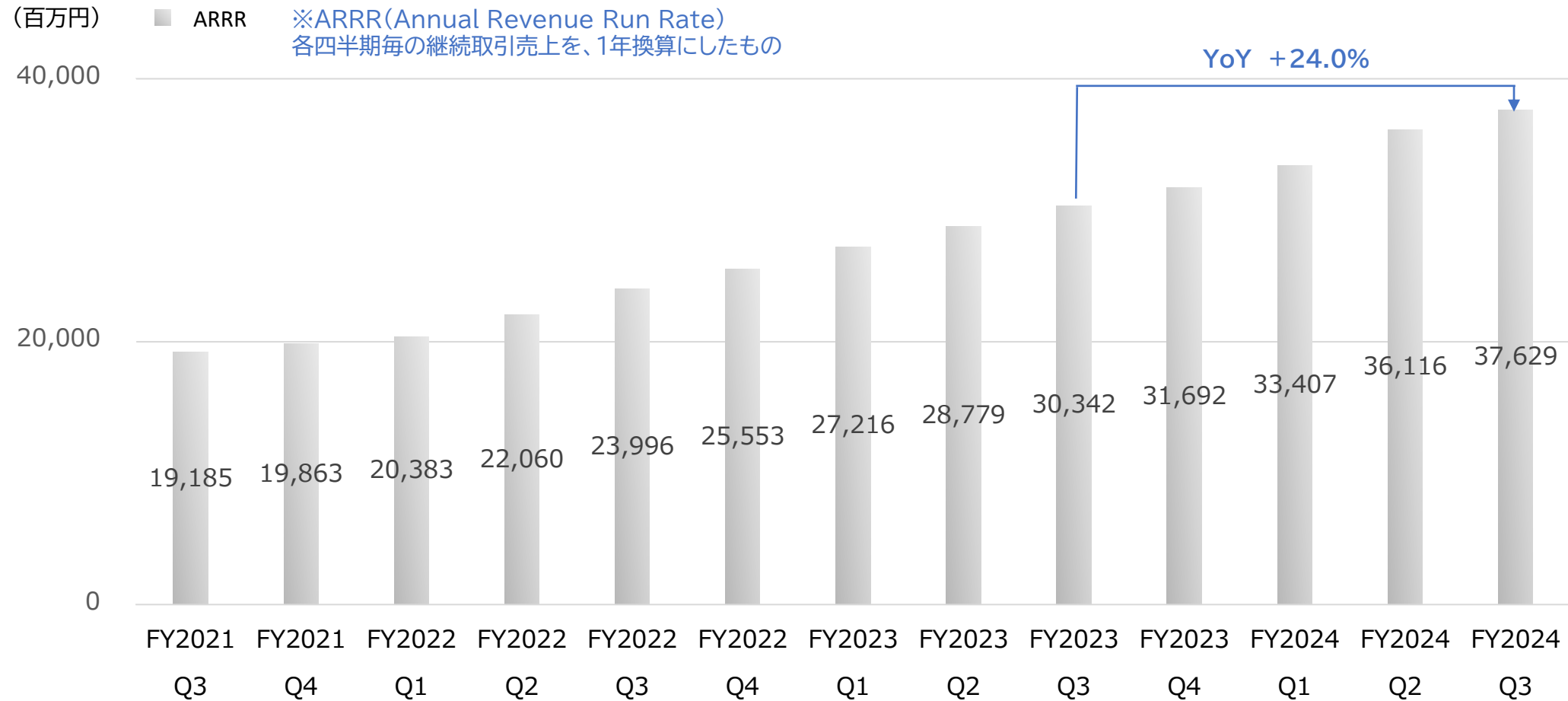
2025年3月期 第3四半期時点 受注残高（単体全体）

- テクマトリックス単体での受注残高の内訳は以下のとおりです。





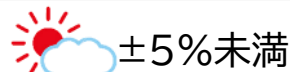
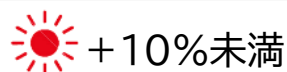
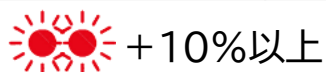
- テクマトリックス 単体でのARRRの内訳 は以下のとおりです。





2025年3月期 3Q セグメント別 お天気図(売上高ベース)

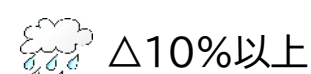
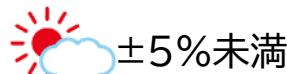
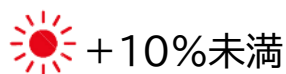
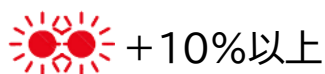
情報基盤事業		前年同期比
次世代ファイアウォール (Palo Alto)	・中規模案件の積み上げと新規大型案件の取り込みにより、クラウド型のセキュリティ対策製品の売上が伸長。中型案件の新規引き合いが引き続き増加傾向。加えて、オンプレミス型のハードウェアの売上を計上(2Q)。	
次世代型メールセキュリティソリューション (ProofPoint)	・DMARCを活用してなりすましメールに対応するクラウド型ソリューションの新規需要が旺盛で売上が伸長。	
アンチウイルス, 不正侵入防御, セキュリティイベント管理, Webセキュリティ(Trellix, Skyhigh)	・不正侵入防御の製品を中心に受注は順調、売上は前年同期水準。	
ストレージ製品 (Dell, Cohesity)	・メディア・エンターテインメント業界を中心に中規模案件を積み上げ。	
負荷分散装置等 (F5)	・トラフィック管理・ロードバランサ(BIG-IP)の中規模案件を積み上げ、売上が伸長。	
個人認証システム, フォレンジック製品 (RSA)	・フォレンジックソリューションの需要拡大により、売上が伸長。	
ネットワーク端末脅威対策プラットフォーム (Tanium)	・エンドポイントにおけるセキュリティ対策の需要は旺盛ではあるが、新規案件獲得が課題となり売上が減少。	
セキュリティ運用・監視サービス (TPS)	・クラウド型セキュリティ対策製品の需要拡大に牽引され、TPSが堅調に推移。	
その他セキュリティ製品	・AIを活用した次世代アンチウイルス製品の引き合いが好調。	
クロス・ヘッド, OCH	・クロス・ヘッド:ストレージソリューションの大型案件により売上が伸長。 ・OCH:新型UTM製品が好調で売上が伸長。	





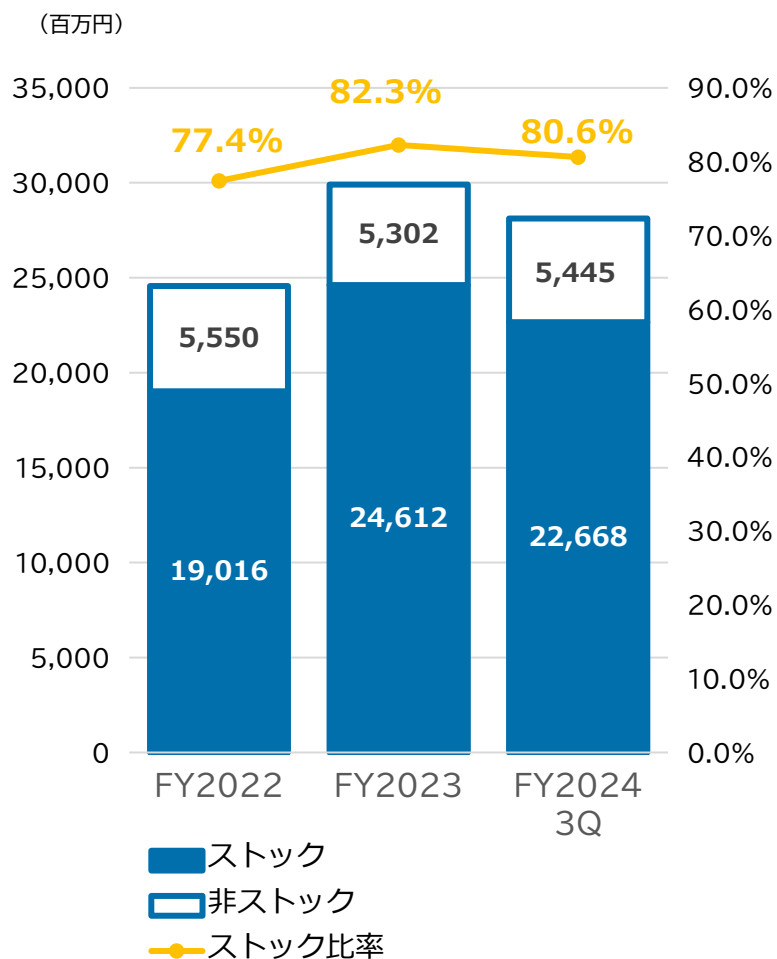
2025年3月期 3Q セグメント別 お天気図(売上高ベース)

アプリケーション・サービス事業		前年同期比
CRM分野	<ul style="list-style-type: none"> 市場環境は好調。サブスクリプション化の進展によりストックが積み上がり、売上が伸長。 	
ソフトウェア品質保証分野	<ul style="list-style-type: none"> 車載業界を中心にテストツールが好調。 サブスクリプション化の進展によりストックが積み上がり、売上が伸長。 	
ビジネスソリューション分野	<ul style="list-style-type: none"> 学術・公共ソリューションが好調に推移するも、エンタープライズが伸び悩み前年水準を維持。 	
教育分野	<ul style="list-style-type: none"> 私立先進校に加え公立校への導入が進み、積み上げにより売上が伸長。 	
カサレアル	<ul style="list-style-type: none"> IT研修などの教育事業が伸び悩むも前年比で増加。 	
アレクシアフィンテック	<ul style="list-style-type: none"> 事業再編による体制強化が進み、前年水準を維持 *2023年7月に金融システム関連事業移管を実施。前年3Qも事業移管したと想定し前年比を算出。 	
医療システム事業		前年同期比
PSP	<ul style="list-style-type: none"> クラウドシフトの進展に加え、オンプレミス型の更新案件の期ズレが影響し、前年同期比で減少。 クラウド型PACSの新規契約・更新・リプレイスはいずれも堅調。 	
医知悟	<ul style="list-style-type: none"> 安定した読影実績を維持し、計画超過。 	
A-Line	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の診療用放射線の安全管理体制に対する投資意欲の向上により、医療機関放射線量管理システムの導入実績を拡大。 	

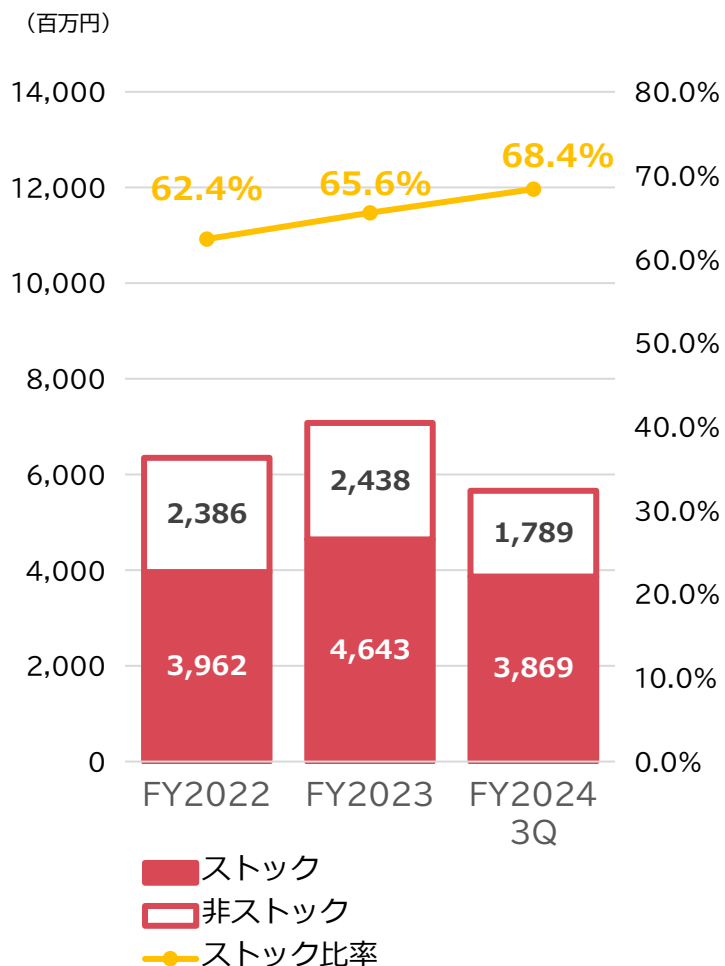




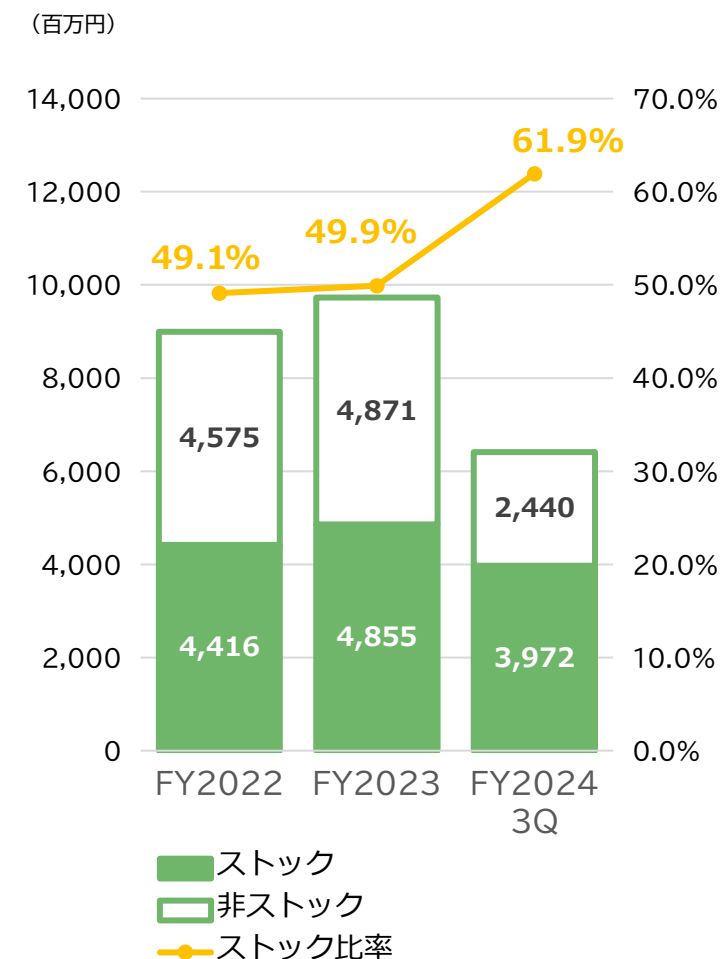
情報基盤事業



アプリケーション・サービス事業



医療システム事業



※ FY2024 3Qの数値は金融事業を除く



連結財政状態計算書

- ※1 売掛金の回収により、「営業債権及びその他の債権」が減少しております。
- ※2 サブスクリプション型のクラウド型セキュリティ対策製品の受注が増加したことにより、本表「その他流動資産」に含まれる「前渡金」及び「その他流動負債」に含まれる契約負債のうち「前受金」が増加しております。
- ※3 Firmus社株式取得により、「のれん」「無形資産」及び「借入金」が増加しております。

(百万円)

	FY2023	FY2024 3Q		FY2023	FY2024 3Q
流動資産合計	70,462	80,733	流動負債合計	51,648	64,109
現金及び預金同等物	27,265	25,637	営業債務及びその他の債務	2,230	2,323
営業債権及びその他の債権 (※1)	6,874	6,100	借入金	570	560
その他流動資産 (※2)	36,321	48,994	その他流動負債 (※2)	48,847	61,225
非流動資産合計	15,294	20,922	非流動負債合計	7,064	8,485
有形固定資産	6,117	6,169	借入金(※3)	100	1,800
のれん(※3)	171	3,912	その他非流動負債	6,964	6,685
無形資産(※3)	2,420	3,942	資本合計	27,043	29,060
投資・その他の資産	6,584	6,898	資本金・資本剰余金合計	6,065	6,096
			自己株式	△930	△921
			利益剰余金	16,037	17,689
			その他の資本の構成要素	571	664
			親会社の所有者に帰属する持分合計	21,744	23,528
			非支配株主持分	5,299	5,532
資産合計	85,756	101,655	負債及び資本合計	85,756	101,655



従業員の推移

FY2023	1Q	2Q	3Q	4Q
情報基盤	635 (+29)	636 (+25)	629 (+11)	636 (+23)
アプリ・サ	377 (+24)	382 (+33)	386 (+31)	387 (+27)
医療システム	419 (+4)	419 (+2)	425 (+12)	426 (+12)
全社(共通)	53 (+3)	52 (±0)	51 (-5)	53 (+1)
連結合計	1,484 (+60)	1,489 (+60)	1,491 (+49)	1,502 (+63)

FY2023	1Q	2Q	3Q	4Q
単体合計	558 (+27)	543 (+11)	541 (-3)	553 (+9)

FY2024	1Q	2Q	3Q	4Q
情報基盤	667 (+32)	659 (+23)	759 (+130)	-
アプリ・サ	416 (+39)	421 (+39)	421 (+35)	-
医療システム	449 (+30)	457 (+38)	457 (+32)	-
全社(共通)	54 (+1)	58 (+6)	62 (+11)	-
連結合計	1,586 (+102)	1,595 (+106)	1,699 (+208)	-

(内 Firmus社)

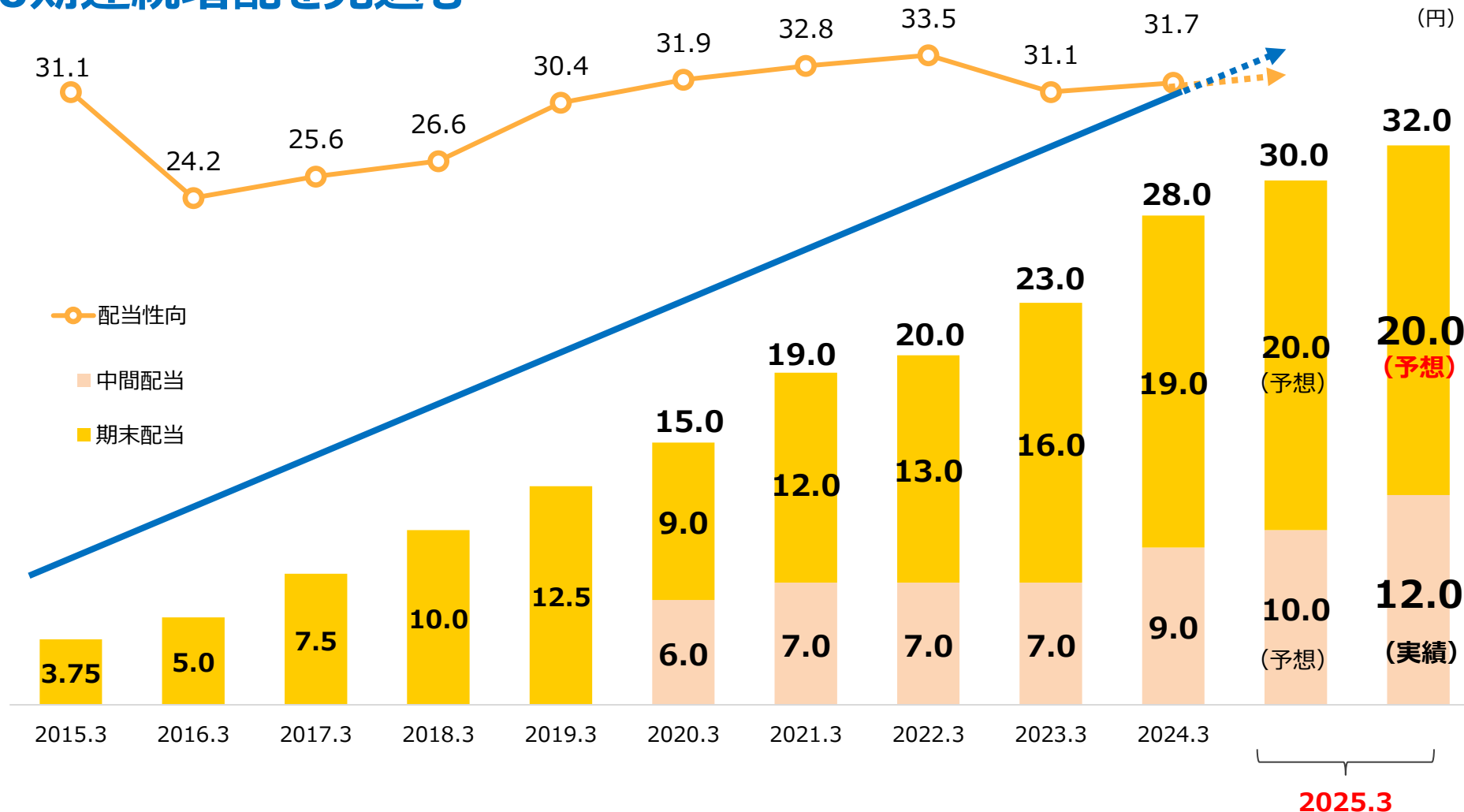
(94)

FY2024	1Q	2Q	3Q	4Q
単体合計	588 (+30)	598 (+55)	605 (+64)	-

※従業員数は就業人員
 ※括弧書きは前年同期比



10期連続増配を見込む



※2017年3月1日及び2020年7月1日付で、それぞれ株式1株につき2株の株式分割を行っておりますため、過年度の配当実績額につきましては株式分割が行われたと仮定して表示しております。



3. 2025年3月期 連結業績予想



- 2024年10月31日発表の業績予想を据え置き

(百万円)

	FY2023	FY2024	前期比較	
	実績	見通し	増減額	増減率
売上収益	53,303	64,400	+11,096	+20.8%
営業利益	5,850	7,000	+1,149	+19.7%
営業利益率	(11.0%)	(10.9%)		(▲0.1P)
税引前利益	5,854	6,700	+845	+14.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	3,540	4,100	+559	+15.8%



セグメント別業績予想

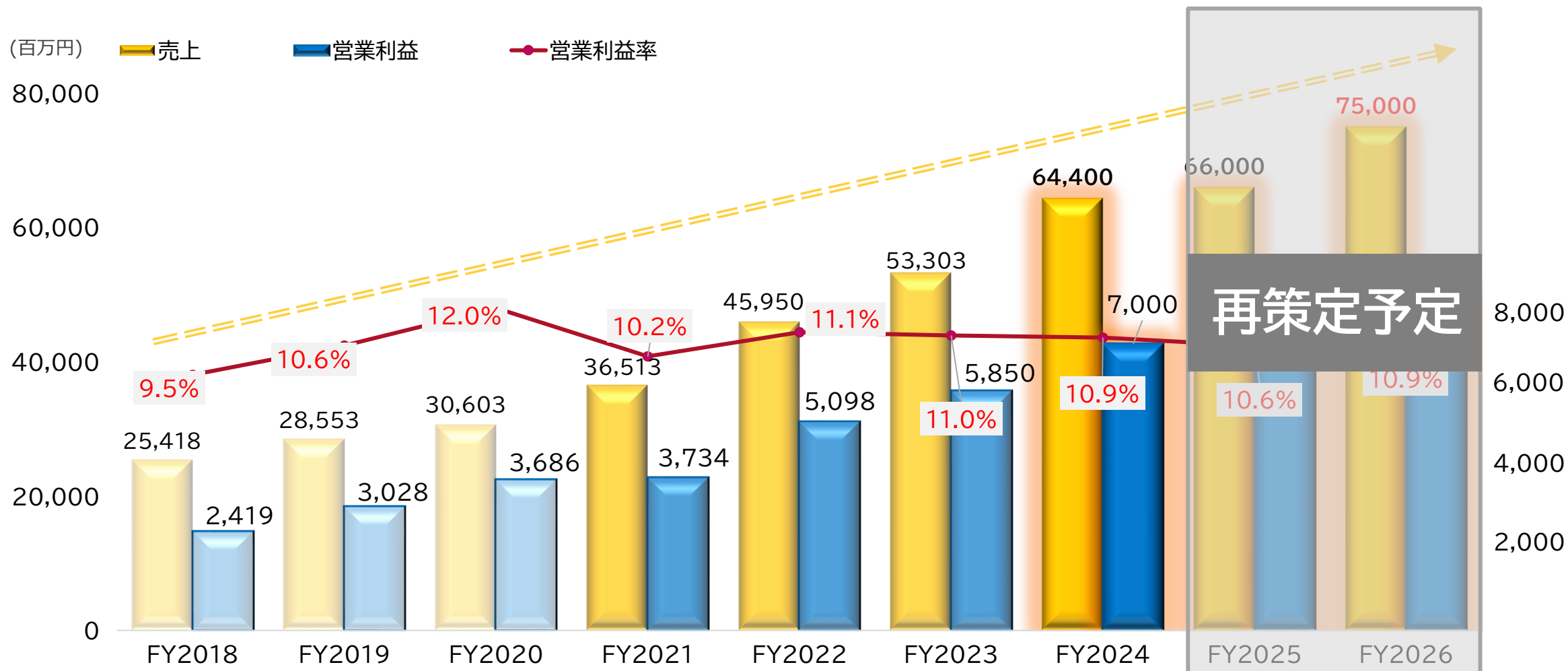
(単位:百万円)

売上収益	FY2023	FY2024	前期比較	
	実績	今回見通し	増減額	増減率
情報基盤事業	35,005	45,400	+10,394	+29.7%
アプリ・サ事業	8,205	9,200	+994	+12.1%
医療システム事業	10,092	9,800	▲292	▲2.9%

営業利益	FY2023	FY2024	前期比較	
	実績	今回見通し	増減額	増減率
情報基盤事業	3,973	5,140	+1,166	+29.4%
アプリ・サ事業	317	410	+92	+29.3%
医療システム事業	1,559	1,450	▲109	▲7.0%



Creating Customer Value in the New Era 計画値 (連結)





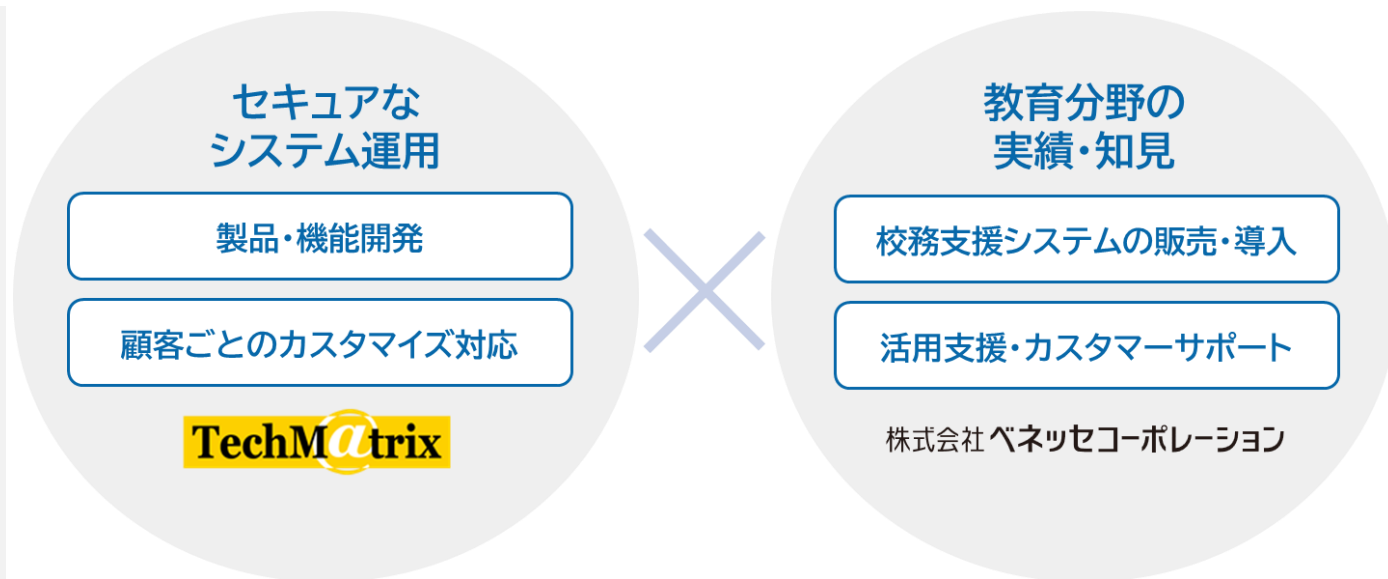
3. 事業活動トピックス

中期経営計画「多様なアライアンス」

2025年4月より、株式会社ベネッセコーポレーションは、高等学校向け校務支援システム「ベネッセ校務クラウド」として当社「ツムギノ」の提供を開始予定

■業務提携の背景

- 学校現場では教職員の働き方改革に向けた取り組みが行われており、紙ベースの業務をデジタル化し効率化する校務DXが促進。教育の高度化が求められている。
- ベネッセは高等学校向けの新たなサービスとしてフルクラウド型校務支援システムの提供を検討。
- テクマトリックスはフルクラウド型校務支援システム「ツムギノ」の販売、導入促進力の強化を検討。



「ツムギノ」をベースにベネッセコーポレーションによるカスタマイズ・付加価値を加え
共同で次世代の校務支援システムを展開



中期経営計画 「多様なアライアンス・M&A」、「AIの活用」

コンタクトセンターの業務効率化・顧客満足度の向上を実現

当社が提供するCRMシステムと連携するAIソリューションが拡大

開発企業	ソリューション名称	連携年月
アドバンスト・メディア	コールセンター向けAI音声認識ソリューション「AmiVoice® Communication Suite」	2020.3
エーアイスクエア	AI自動要約・分類システム「QuickSummary」	2020.1
RevComm	音声解析AI電話「MiiTel」	2021.5
AI Shift	ボイスボットによる顧客へのヒアリング内容をCRMに自動格納する「AI Messenger Voicebot」	2023.10
トゥモロー・ネット	ナビゲーション型対話AI「CAT.AI」	2024.5
PKSHA	AI音声認識・コール分析「PKSHA Speech Insight」	2024.5
NEW SCSK	生成AIを活用した自動要約やFAQ生成支援等をするクラウド型コンタクトセンターサービス「Prime Tiaas」	2024.11

従来

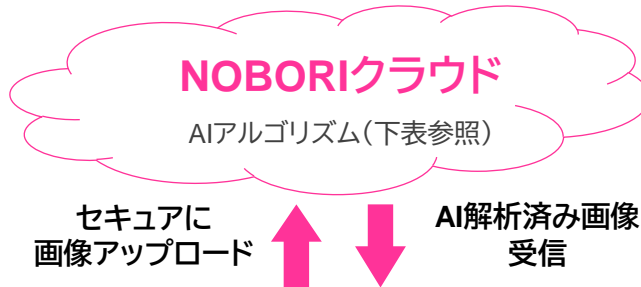
オペレーターがお客様との会話記録を作成し
手動でCRMシステムに登録

ソリューション連携後

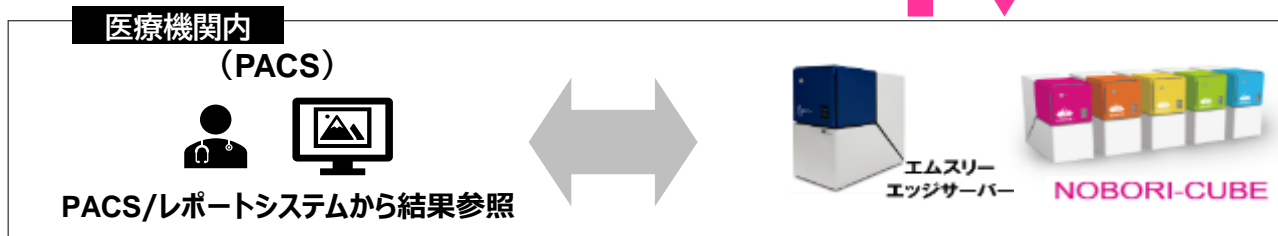
電話基盤・音声認識システムの連携により
オペレーターとお客様の会話を自動で文字化・
要約。生成AIによるFAQ作成支援あり。



中期経営計画 「多様なアライアンス・M&A」、「AIの活用」



エムスリー社とPSP社で業務提携し
医用画像診断支援AIプラットフォーム
事業を推進



※NOBORIのPACSユーザーは、
NOBORI CUBEで併用可能

病状	AI開発企業	補足	対象画像
脳動脈瘤	エルピクセル*	脳の血管から脳動脈瘤に似た候補を検出	レントゲン
肺疾患		レントゲン画像から肺結節の他、複数所見の疑い領域を検出	レントゲン
間質性肺疾患	エムスリー	レントゲン画像から間質性肺疾患の疑い領域を検出	レントゲン
肺疾患	ビューノ	胸部CT画像から、肺結節の疑い領域を検出 前回検査からの変化量も示す	胸部CT
脳卒中	キャノンメディカルシステムズ	頭部CT画像から脳出血・脳梗塞の疑い領域を検出	頭部CT
がん	キャノンメディカルシステムズ	体幹部CT画像を解析し過去検査との骨変化を見える化。 がんフォローアップ症例等での骨変化の観察に利用。	体幹部CT
心疾患	Us2.ai	心エコー画像を解析し、心房心室の各種計測項目を自動計測	エコー

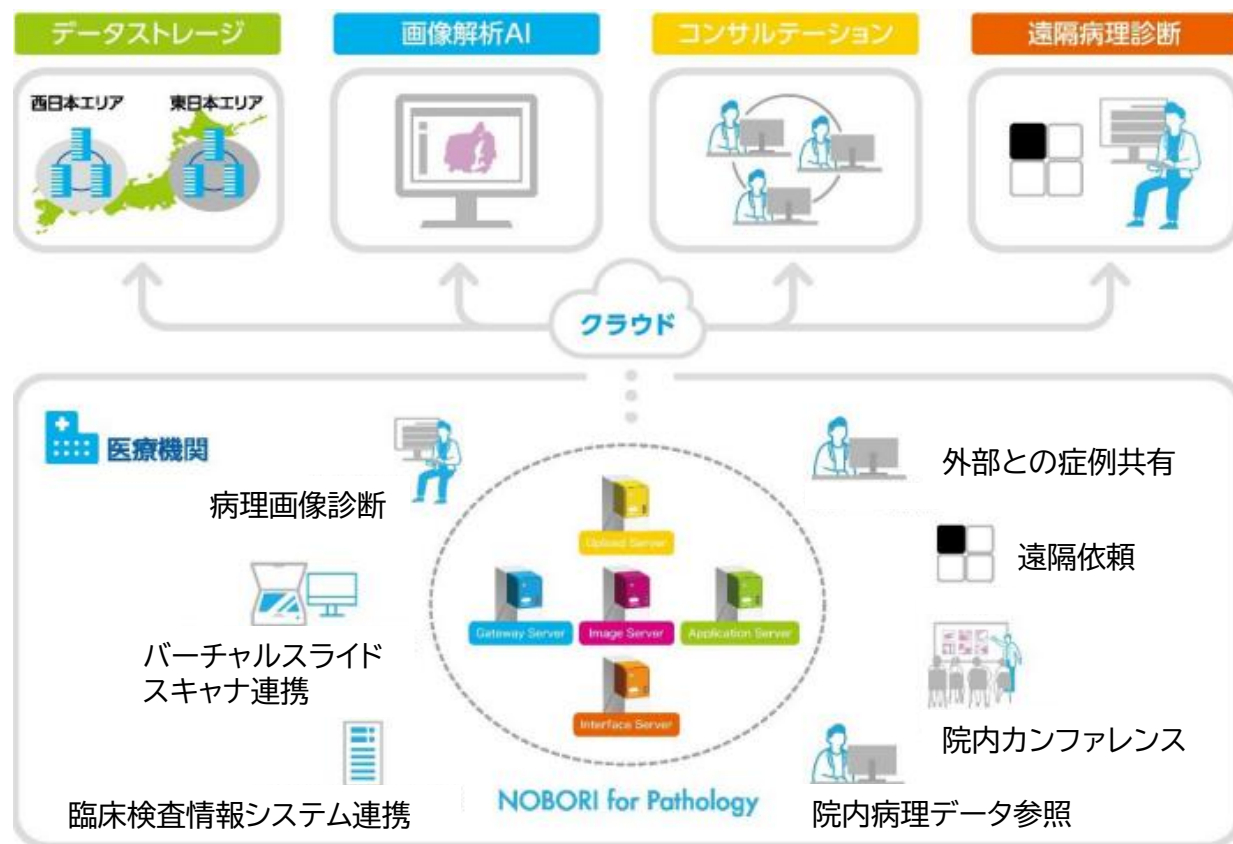
NEW



中期経営計画「多様なアライアンス・M&A」

医療施設で撮影された CT、MRI 画像等の医療情報を安全に保管・利用できるクラウド型の医用画像管理システム(PACS) サービス「NOBORI」に、新たに**病理分野向けのサービス**を加え、2024 年11月1日より提供を開始

病理分野向けのサービス



背景

病理診断に従事する専門医数不足などの理由から、病理部門のデジタル化の推進が必要



2022年7月にデジタル病理ソリューションのパイオニアであるメドメイン株式会社との資本業務提携を開始し、病理分野向けのソリューションを開発

- NOBORIで新たに、サービスクラウド上で病理分野向けにデータストレージ、画像解析AI、コンサルテーション、遠隔病理画像診断の4つのサービスを提供
- NOBORIでは、病理画像データに加え、CTやMRI、内視鏡などの他の検査種の画像データとの統合管理が可能に
- 病理部門のワークフロー改善に貢献



(ご参考)2025年3月期1Qトピックス



中期経営計画「取扱製品の拡大・新規サービスの立ち上げ」

■Dispel社(米国)とパートナー契約を締結(2024年5月)

* Dispel社は2015年に設立され、製造業、政府、公益事業のお客様(年間生産総額42兆円)にサービスを提供

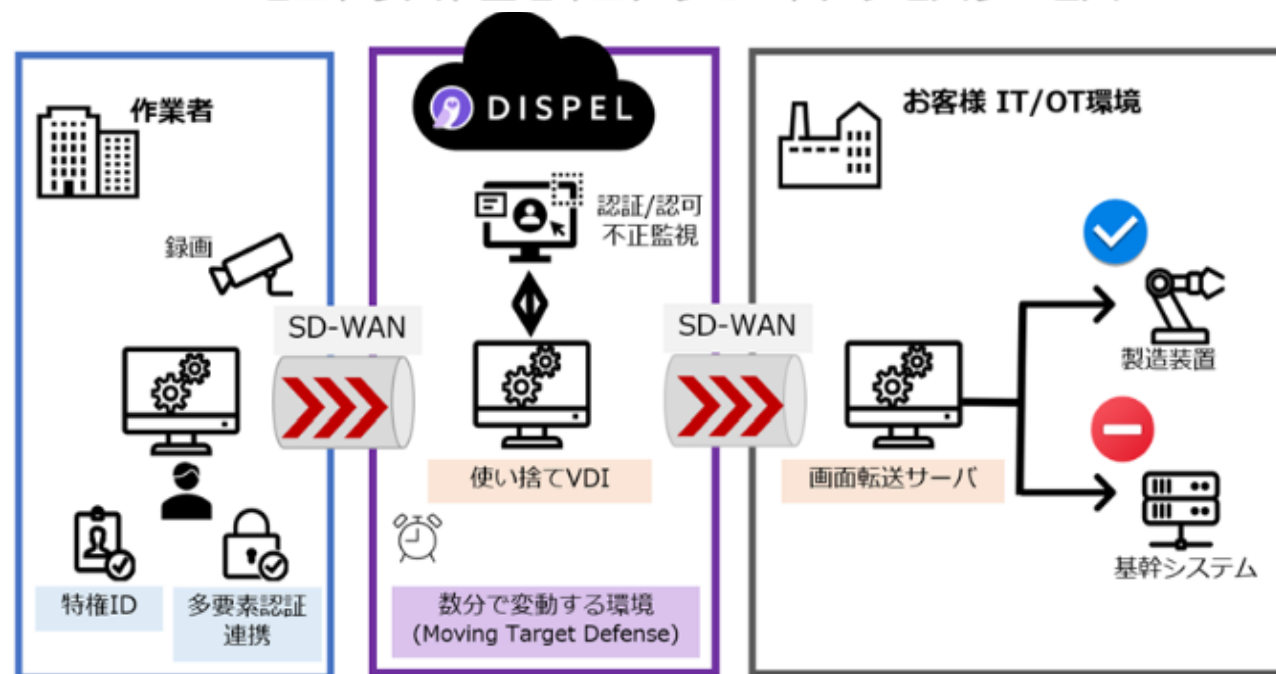
市場環境

- ・OT環境(Operational Technology: 製造業・社会インフラの「制御・運用技術の総称」)へのサイバー攻撃が深刻化
- ・IT/OT環境におけるリモートメンテナンスに使用されるVPN装置が攻撃の標的となる

製品特徴

- ・クラウド上で提供する統合プラットフォームにより、IT/OT機器にアクセスすることをリアルタイムで制御
- ・数分おきにクラウド環境のIPアドレスやアクセスリストを変動させる防御機能により、ランサムウェアなどの外部からのサイバー攻撃を回避

IT/OTのリモートメンテナンスに特化した
ゼロトラスト型セキュアリモートアクセスサービス



Interop Tokyo 2024にて Best of Show Award 産業ネットワーク部門審査員特別賞を受賞(2024年6月)





中期経営計画 「多様なアライアンス・M&A」、「AIの活用」

モビルス社(持分法適用会社)製品のOEM提供を受け、テクマトリックス製品(FastSeriesブランド)として、
コンタクトセンター向けのソリューション4製品の販売を開始

コンタクトセンターの業務効率化・顧客満足度の向上を実現

ボイス(電話)中心の
マルチチャンネルが強み

製品連携・共同開発

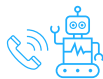
ノンボイス(チャット / LINE /
BOT), 生成AI領域が強み

Voice

Non-Voice

ボイスボット

音声電話応答を自動化
するAIボイスボット



ビジュアル IVR(※)

音声によるIVRをビ
ジュアル化したもの。
スマートフォンやPCの
ウェブブラウザ上に選
択肢をメニュー表示。



チャットボット

顧客対応のシナリオを
簡単に作成。生成AIや
基幹システム等と連携
し顧客対応を自動化。



有人チャットシステム

多機能な有人チャット
システム。細やかな顧
客対応。



(※) IVRは、Interactive Voice Responseの略。ビジュアルIVRは、お客様の問い合わせ内容を認識して最適なチャネルを視覚的にご案内します。

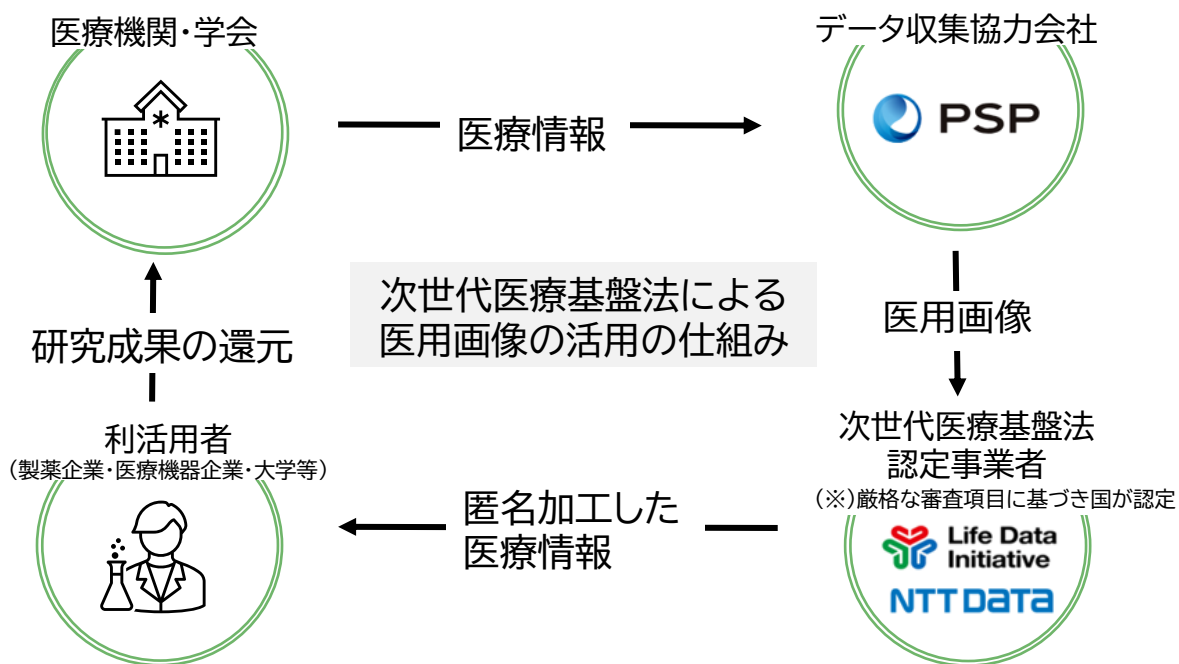


中期経営計画「多様なアライアンス・M&A」

画像検査を支援するプログラム医療機器等の研究開発等を支援し、より早期で精緻な診断や医師の労働時間軽減による働き方改革を支援

2024年6月7日 ライフデータイニシアティブ社及び NTTデータ社と次世代医療基盤法に基づく匿名加工医療情報として医用画像データの提供を2024年10月から開始

次世代医療基盤法に基づく医用画像データの提供は日本初



背景

- 研究・開発に必要な医用画像データが不足している
- 医用画像データを取得するまでの費用・時間の手続きが煩雑である
- 医用画像の活用には秘匿性を考慮した高い匿名加工処理技術が必要である
- 2024年4月に医師の働き方改革が施行された

次世代医療基盤法に基づく医用画像データ提供の効果

- 簡便に医用画像データを活用できる環境が実現する
- AIを用いたプログラム医療機器などの研究開発等が進むことで、より早期で精緻な診断を支援する
- 医師の労働時間を軽減する



中期経営計画「多様なアライアンス・M&A」

当社連結子会社であるPSP社がレギュラス社の全株式を取得し、完全子会社化(当社の孫会社・非連結となります)
2024年6月21日 全株式取得完了



 医知悟LLC
出資比率95.0%

遠隔画像診断を支援するIT情報インフラの提供
遠隔画像診断に対する業務支援情報サービス等を提供

 A-line
出資比率84.1%

クラウド型被ばく線量管理システム「MINCADI」の
開発・サポートを提供

 M3 AI
出資比率35.0%

プラットフォームとしてさまざまな画像診断支援AI
サービスを提供

 REGULUS
出資比率100.0%

医用イメージングに特化した開発業務委託機関（CRO）と
して、臨床研究や治験におけるエビデンスを高める画像診断
品質管理プロセスの構築・運用・管理のサービスを提供

株主・持株比率



テクマトリックス株式会社	50.02%
三井物産株式会社	20.00%
エムスリー株式会社	18.70%
大日本印刷株式会社	11.28%

非連結



中期経営計画「多様なアライアンス・M&A」

レギュラス社の医用画像(医用イメージング)に特化した豊富な臨床領域の知見とPSP社の医療ITの技術力・開発力・営業力を組み合わせ、事業領域を拡大



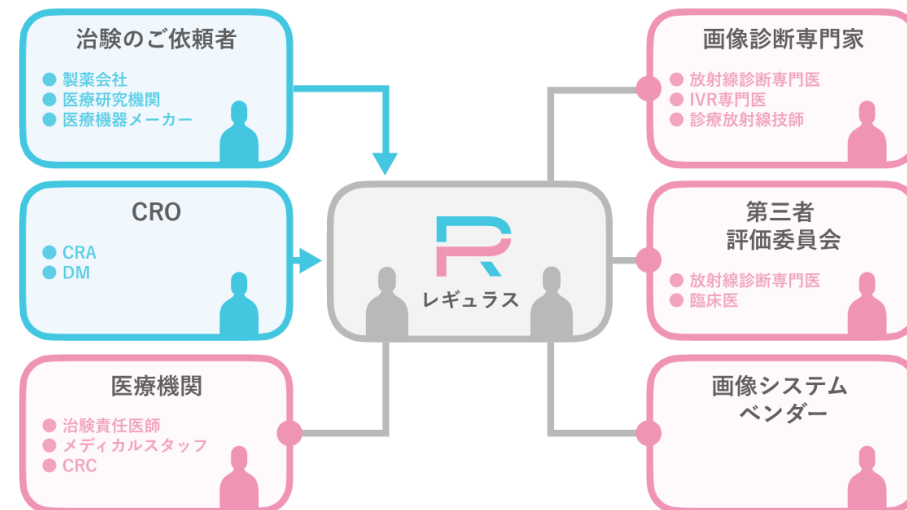
- 医用画像管理システム (PACS) やPHRなどの医療ITクラウド技術
- システム・サービス開発力
- 営業力

- 研究機関・製薬機関との信頼関係
- 臨床医・画像診断医との信頼関係
- 抗がん剤治療効果測定ノウハウ

個別化医療で複雑化する「がん医療」を支援するDXとして「抗がん剤治療計画管理 & 治療効果判定支援プラットフォーム」を構築

治療計画や治療経過の情報を1つのプラットフォームに集約し、患者さんやその家族への情報共有や、医師同士の連携に活用

レギュラス社の立ち位置



製薬企業等が行う臨床試験の業務を代行・支援 (画像撮影の手順作成・撮影条件設定、画像データの収集・解析、医師による判定会の準備、製薬機関等へのレポート提出等)

イメージングCRO(※)市場規模

2024年には53億7,000万米ドル、
2030年には81億9,000万米ドルに達すると予測

出所:株式会社グローバルインフォメーション「イメージングCRO市場:サービス、イメージングモダリティ、アプリケーション、エンドユーザー別-2024-2030年の世界予測」

(※) 医薬品開発業務受託機関 (Contract Research Organization)の略。 38



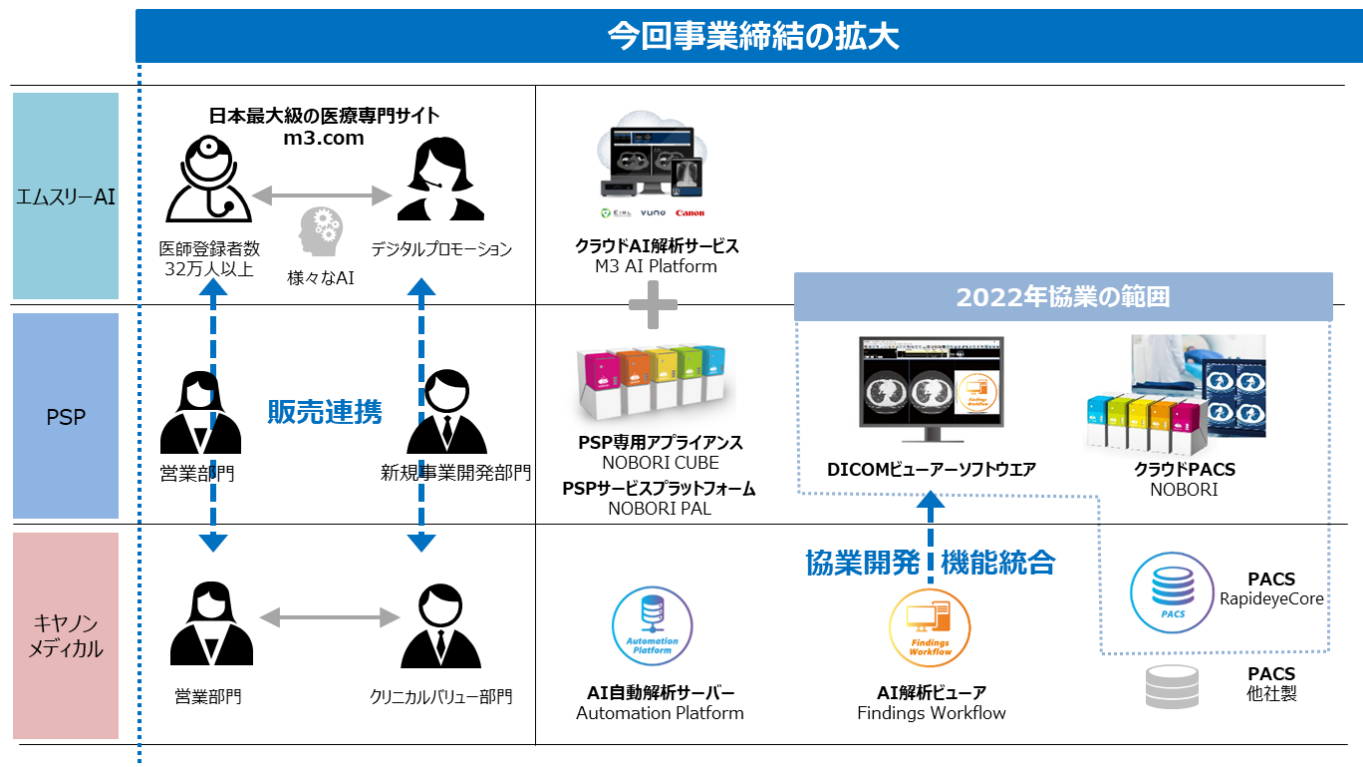
中期経営計画 「多様なアライアンス・M&A」「AIの活用」

医療AI推進のための業務提携

2024年4月4日 PSP社、キヤノンメディカルシステムズ社、エムスリーAI社による医療AI推進のための業務提携

販売連携により医療AIを活用できる環境を拡大し、画像診断における読影品質のさらなる向上・効率化を実現

今回事業締結の拡大



背景

- 高齢化による疾病構造の変化や医師不足等により、国内の医療現場は厳しさが増している
- 2024年4月から医師の働き方改革が施行され、医療現場において一層の効率化が求められている

業務提携の効果

- AI技術の活用により、画像診断における読影品質のさらなる向上・効率化
- より幅広いお客様が医療AIを活用できる環境の提供



サステナブル経営を意識した経営基盤の強化により顧客価値を創出し、より良い未来を創造する

Environment

気候戦略・行動計画を策定、グループ会社におけるGHG排出量の算出に着手 ※詳細別頁

- ・ 気候変動におけるリスクと機会を特定
- ・ グループ会社を含むGHG排出量の算出に着手

Social

「人権に関する取り組み」「社内環境整備・人材の育成に関する取り組み」を拡充

- ・ 取引先向けガイドライン(人権・労働)を策定し、海外オフショア先向けに人権デューデリジェンスを実施
- ・ 介護支援企業マーク「トモニン」を取得
- ・ 優良な子育てサポート企業として「プラチナくるみん」を取得

介護支援企業マーク「トモニン」



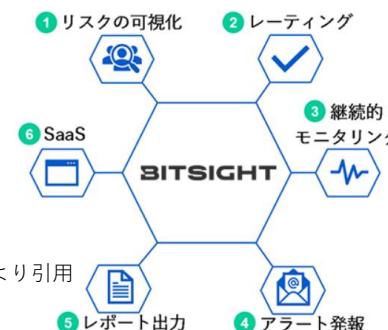
Governance

グループ会社を含む情報セキュリティリスクを可視化し、セキュリティレベルを強化

- ・ BitSightのレーティングスコアの改善 (750点/2024年7月時点)

※グラス・ルイス社(議決権行使助言会社)は、企業のセキュリティレベルをBitSight社のレーティングで評価

人事委員会のガバナンス体制を強化 ※詳細別頁



右図は伊藤忠テクノソリューションズ社のHPより引用
<https://www.ctc-g.co.jp/solutions/bitsight/>



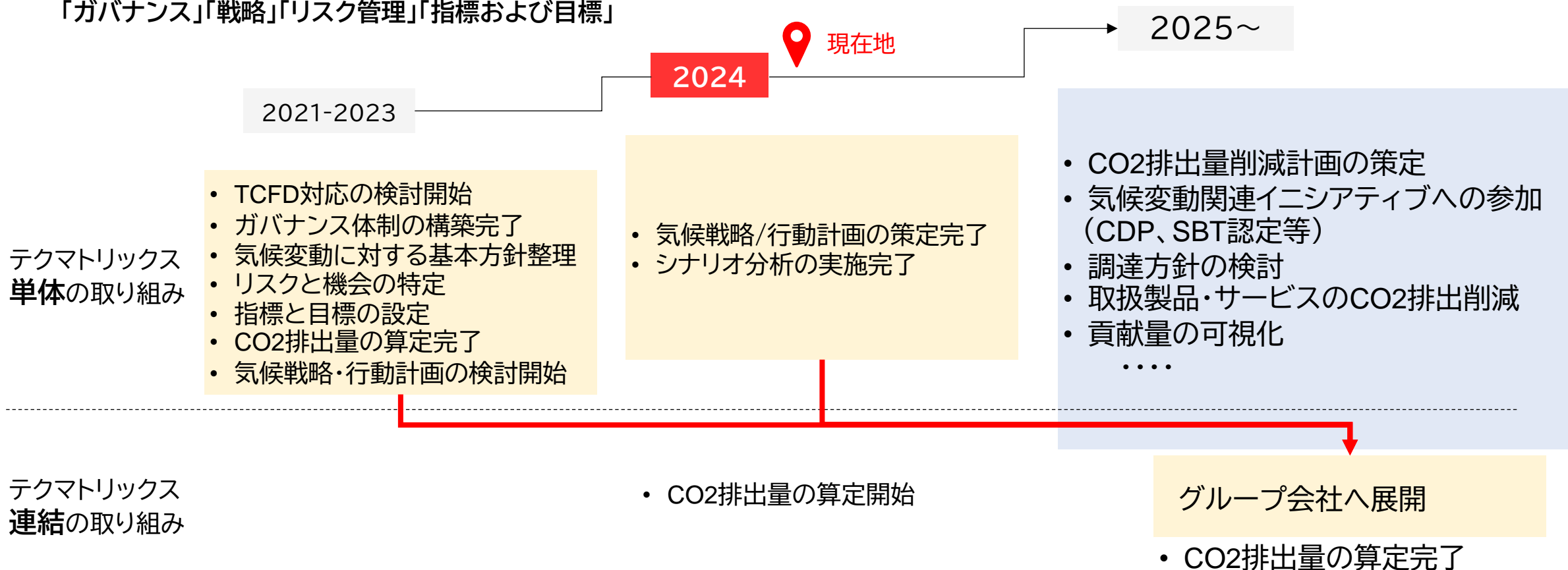
Environment

ISSB基準(※TCFD提言)に沿った環境開示対応が8割程度完了

※企業の情報開示の進捗に関する監督業務はTCFDはISSBに移管しましたが、TCFD提言は引き続き有効です。

開示事項の4つの柱:

「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標および目標」





Governance

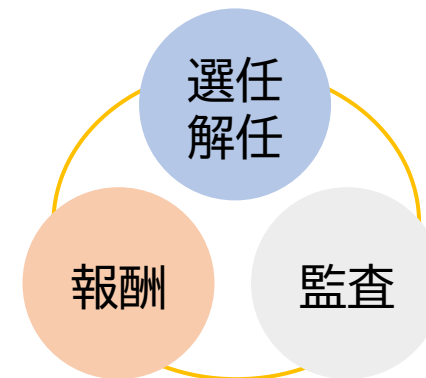
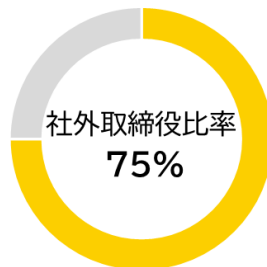
人事委員会のガバナンス体制を強化

2024年6月 人事委員会の委員構成・委員長を変更
 委員構成: 4名(社外取締役3名、社内取締役1名)
 委員長 : 社外取締役

委員構成(3名)
矢井 隆晴(委員長)
高山 健
三浦 亮太



委員構成(4名)
杉原 章郎(委員長)
高山 健
三浦 亮太
矢井 隆晴



人事委員会での検討内容

- 取締役任期に関する基準の策定
- 次世代経営層の選定・育成
- 社外取締役の後任候補の人選(ロングリストの作成)
 ※新たな女性取締役候補の選任含む



(ご参考)2025年3月期2Qトピックス



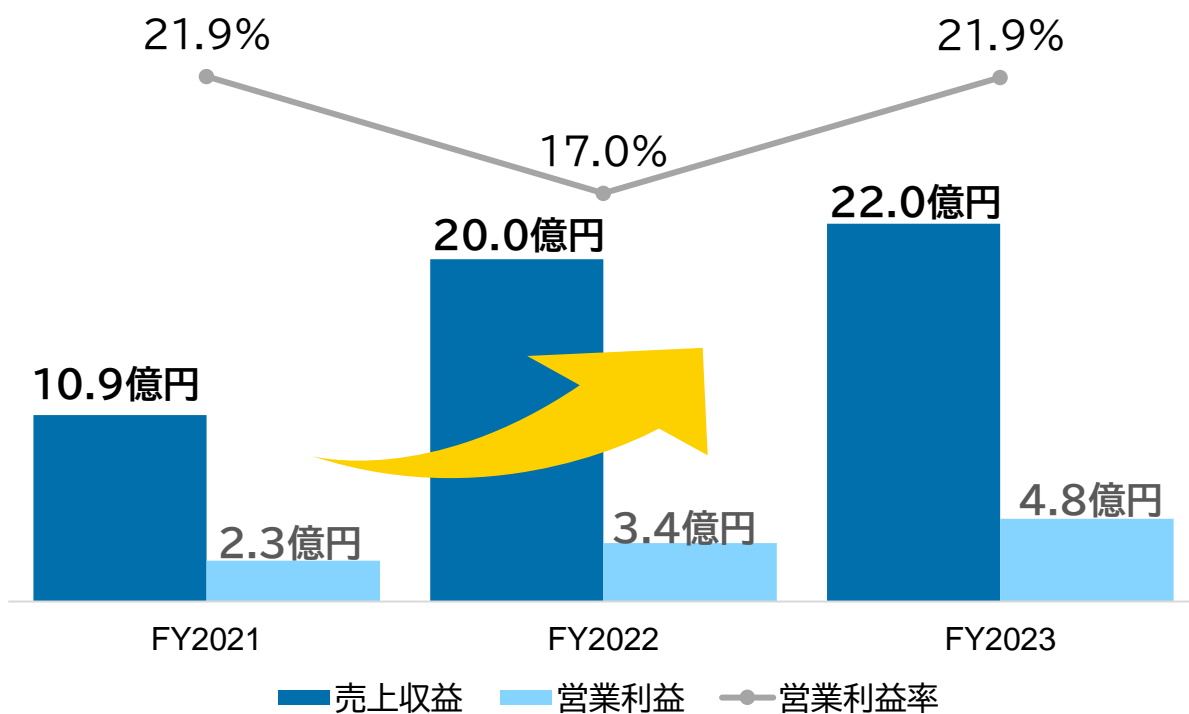
中期経営計画「多様なアライアンス・M&A」

■マレーシアの最大手サイバーセキュリティ専門事業者である

Firmus Sdn. Bhd. (以下「Firmus社」)の全株式を取得し、完全子会社化(2024年11月予定)

※期間損益の取り込みは、今期第3四半期からを予定

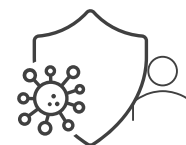
Firmusグループの連結業績は順調に推移



*MYR to JPY:35.0

Firmus社の事業内容

セキュリティサービスを中心に
セキュリティソリューションも提供



インシデントレスポンス、ペネトレーションテスト、
マネージドサービス等を展開

大手金融機関を中心に
約200社にサービスを提供



Firmus社と当社の概要

	Firmus Sdn. Bhd.	テクマトリックス株式会社
所在地	Level 15, Hampshire Place, No. 1 Jalan Mayang Sari 50450 Kuala Lumpur Wilayah Persekutuan, Malaysia	東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス 24F
代表者の役職・氏名	CEO/取締役 Datuk See Wei Chyun	代表取締役社長 矢井 隆晴
事業内容	セキュリティサービス、セキュリティコンサルティング、セキュリティ製品の販売	IT関連のソフトウェア、ハードウェア、ソリューション販売コンサルティング、保守等のサービスを提供。情報基盤事業においては、最先端のネットワーク・セキュリティ製品と運用監視サービスを提供。
資本金	100万MYR(2023年12月31日現在) (約0.35億円)*MYR to JPY:35.0	12.98億円
従業員数	73名	1,502名(2024年3月期)
売上高	6,311万MYR(22.0億円)(2023年12月期)	533.0億円(2024年3月期)
営業利益	1,380万MYR(4.8億円)(2023年12月期)	58.50億円(2024年3月期)
営業利益率	21.9% (2023年12月期)	11.0%(2024年3月期)
経常利益(税引前利益)	1,371万MYR(4.7億円)(2023年12月期)	58.54億円(2024年3月期)
当期純利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益)	974万MYR(3.4億円)(2023年12月期)	35.4億円(2024年3月期)
1株当たりの当期純利益 (基本的1株当たり当期利益)	18MYR(630円)(2023年12月期)	88.35円(2024年3月期)



M&Aの目的

両社のサービスやノウハウを補完しあい、専門性の深掘り・販売網の拡大を図る
将来のビジネス成長を見据え、経済成長が著しいASEAN市場において事業を展開する



顧客基盤

海外市場での事業拡大
(ASEAN市場)

マレーシア市場への進出を足掛かり
としたASEAN市場への事業拡大



海外(ASEAN市場)での業績拡大



製品・サービス

製品販売の拡大

当社の製品発掘力を活かし
Firmus社のASEAN市場での
製品販売力の強化(Palo Alto等)

サービスの拡充

両社の取扱サービスの相互販売・共同開発
・セキュリティ監視サービス(当社)等
・ペネトレーションテストサービス※(Firmus)等



知見・技術・ノウハウ

グローバルなセキュリティ
人材の獲得・育成



※ペネトレーションテストとは、ハッカーの視点から想定される攻撃シナリオに沿って模擬攻撃することでセキュリティの充分性や被害レベルを調査すること。



情報基盤事業におけるグループ体制

TechMatrix

情報基盤事業

ネットワークセキュリティ事業部

クロス・ヘッド株式会社
[100%]



OCH株式会社
[100%]



Firmus Sdn. Bhd.
[100%]

Firmus Consulting Sdn. Bhd.
[100%]

Firmus Pte. Ltd.
[70%]

今回のM&Aにより、 3社が当社グループにジョイン

ITシステム基盤のコンサルティング・設計・構築、海外IT製品の輸入・販売・サポート、ネットワークエンジニア派遣等

IT人材教育・育成、ネットワーク・サーバの構築等

セキュリティサービス、セキュリティコンサルティング、セキュリティ製品の販売

セキュリティコンサルティング

セキュリティコンサルティング

統合報告書を発刊（2024.9）

すべてのステークホルダーの皆様へ、テクマトリックスグループの中長期的な企業価値向上に向けた取組に対する理解と信頼を深めていただくために、財務・非財務情報を統合的に説明する「統合報告書」を発行。



特にお読みいただきたいページ

- ・企業理念の浸透を図る社内調査の実施(社員の生の声を掲載) p.2
- ・社長メッセージ p.11-16
- ・強みと事例 p.19-22
- ・新中期経営計画(リスクと機会の抽出、事業戦略、財務戦略、人事戦略)
p.25-38, 45-48
- ・社外取締役対談(後継者選任プロセス) p.49-52

※統合報告書は当社IRサイトに掲載しております(日本語)。

https://www.techmatrix.co.jp/ir/library/library_07.html

※統合報告書の英語版は11月末に公表予定です。



当社が組み入れられている投資指数

- **FTSE Blossom Japan Sector Relative Index** **今年から新規選定**

※GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)がESG投資指数として採用。
ロンドン証券取引所グループ傘下のFTSE Russell社が開発した世界的なESG投資指数。
ESG(環境、社会、ガバナンス)評価の高い日本企業の銘柄で構成。



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

ESGの取組みを推進し、FTSE Blossom Japan Indexへの組み入れを目指す

- **S&P/JPXカーボンエフィシエント指数**

※GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)がESG投資指数として採用。
米S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社と日本取引所グループが共同で開発した、
ESG投資のうち「E」に着目した指数。
環境情報の開示状況、炭素効率性(売上収益当たり炭素排出量)が優れた東証株価指数の銘柄で構成。



- **Russell/Nomura Prime**

※野村証券金融工学研究センターと米Russell Investments社が共同開発した日本株指数。

- **「JPX 日経中小型株指数」**

※東京証券取引所と日本経済新聞社が共同で開発した、資本の効率性や財務状況に着目した中小型株指数。



EOF

(ご参考)

中期経営計画

「Creating Customer Value in the New Era」

テクマトリックスの企業理念

未来創造型企業として新しい時代を生き抜くには、
新規事業の創出が不可欠

Mission Statement

より良い未来を創造するITのプロフェッショナル集団

行動指針

- 共存・共栄の精神のもと、誠実、かつ真摯に顧客貢献・社会貢献に取り組む
- 常に謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、新しい技術や新しいビジネスに挑戦し続ける
- オープンな議論を交わし、全員がチームの成功と成長にコミットする

新中期経営計画(2024年~2026年)のスローガン

Creating Customer Value in the New Era



新中期経営計画への想い

テクマトリックスグループは
目利き力と業務ノウハウを詰め込んだソリューションで社会課題を解決し
より良い未来を創造し続けたい

目利き力

×

業務ノウハウ

=

より良い未来

- ・解決すべき社会課題を発見すること
- ・最先端のテクノロジーを見い出すこと

- ・専門性を要する特定の業界・業務に対してお客様よりも深い業務の知見を有すること

- ・お客様の利便性、業務効率性の向上
- ・お客様が安全にかつ安心して暮らせる社会

新中期経営計画 – 顧客価値の創造

Creating Customer Value

顧客価値の源泉(DNA)

業務ノウハウを詰め込んだ
ソリューションの提供

信条・心ざし(企業文化)

顧客への手厚い支援
逃げずに粘り強く対応

社員一人ひとりが挑戦し
成長できる環境

事業を支えるインフラ(顧客価値を提供するベース)

人財の確保とリテンション、迅速 / 正確に業務を遂行するためのシステム

新中期経営計画 – 新しい時代

the New Era

労働人口の
減少

×

新たな
テクノロジーの出現

×

企業の
社会的責任



新中期経営計画 - 基本戦略

目的(実現したいこと)

事業領域の拡大

海外市場での
事業の拡大

データを活用した
ビジネスの創造

手段(実現に向けて)

取扱製品の拡大
新規サービスの立ち上げ

AIの活用

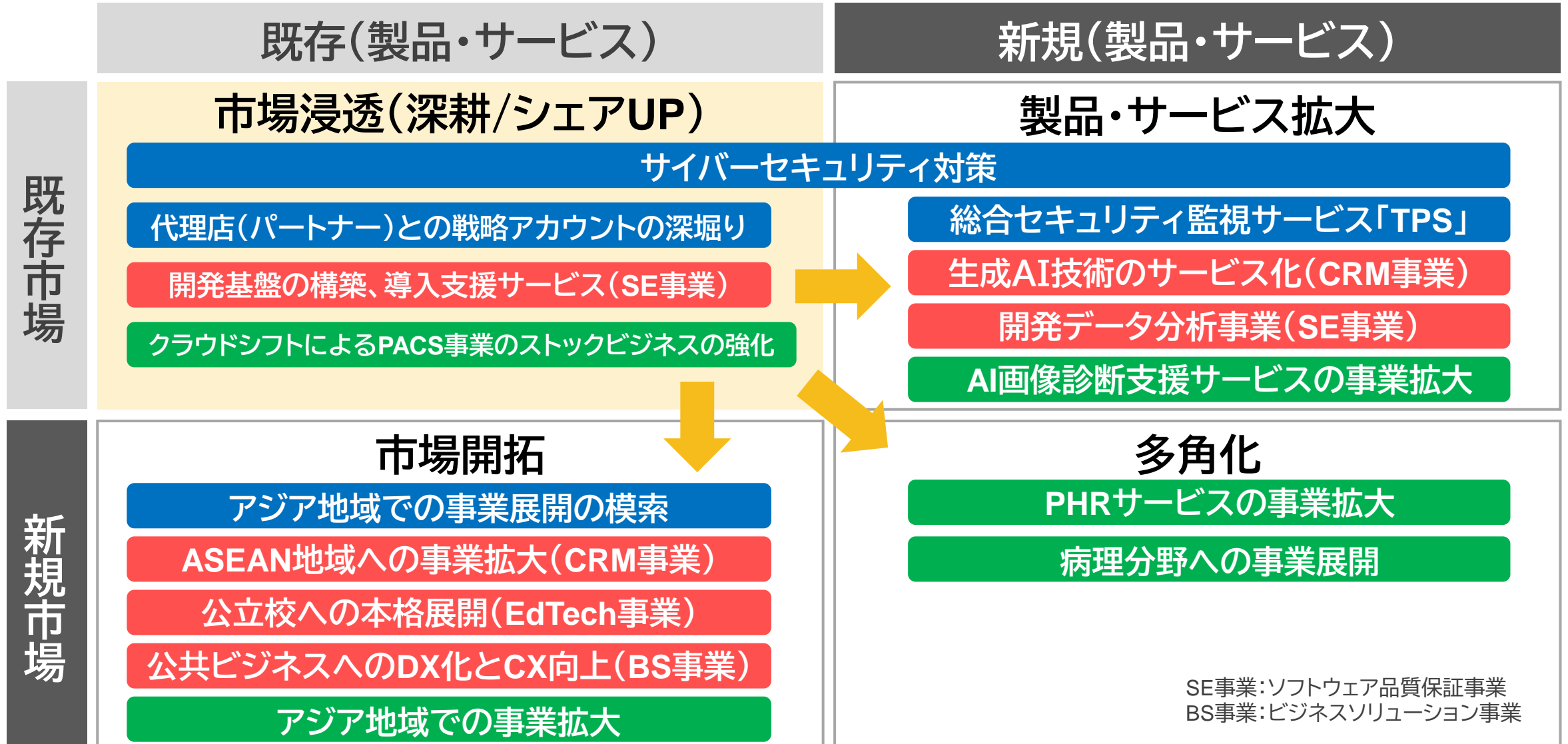
グループ間連携強化による
シナジーの創出

多様なアライアンス・M&A
(既存事業の拡充と新規事業の創出)

人材育成とリテンション
(ダイバーシティ推進含む)

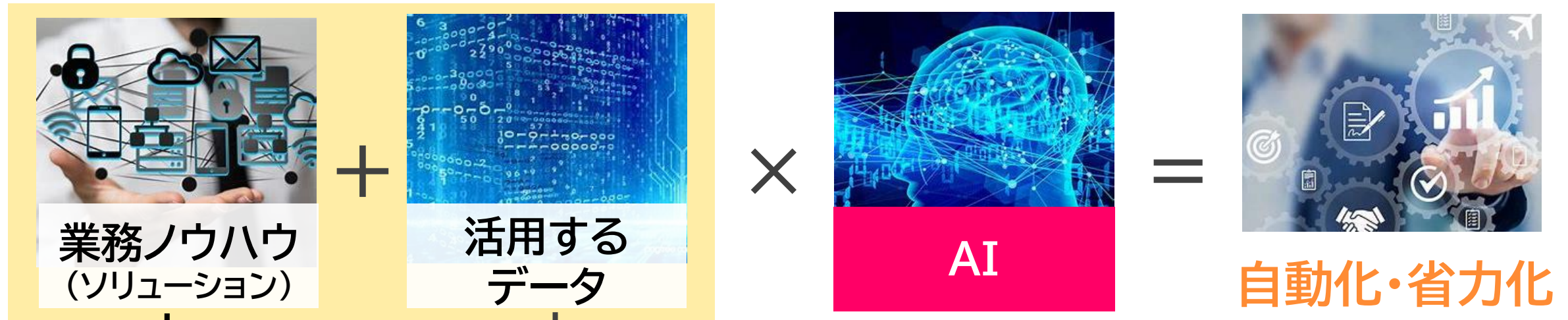
新中期経営計画 - 成長マトリックス

- 情報基盤事業
- アプリケーション・サービス事業
- 医療システム事業



新中期経営計画 - データの利活用

当社ソリューションのお客様のデータ利活用による自動化・省力化を支援



- ・医療システム事業
医用画像管理を含む医療機関の業務プロセス
- ・CRM事業
コンタクトセンターのオペレーション及びナレッジ管理
- ・SE事業
ソフトウェア開発プロセス及び品質管理
- ・ネットワークセキュリティ事業
セキュリティ対策及びセキュリティ運用

- ・医療システム事業
医用画像データ
*5,000万人超、3億件超のデータ数(2024年3月期)
- ・CRM事業
コール履歴データ
問い合わせ履歴データ



(ご参考)データ・その他

57,334,000

「NOBORI」に画像を保管している患者数

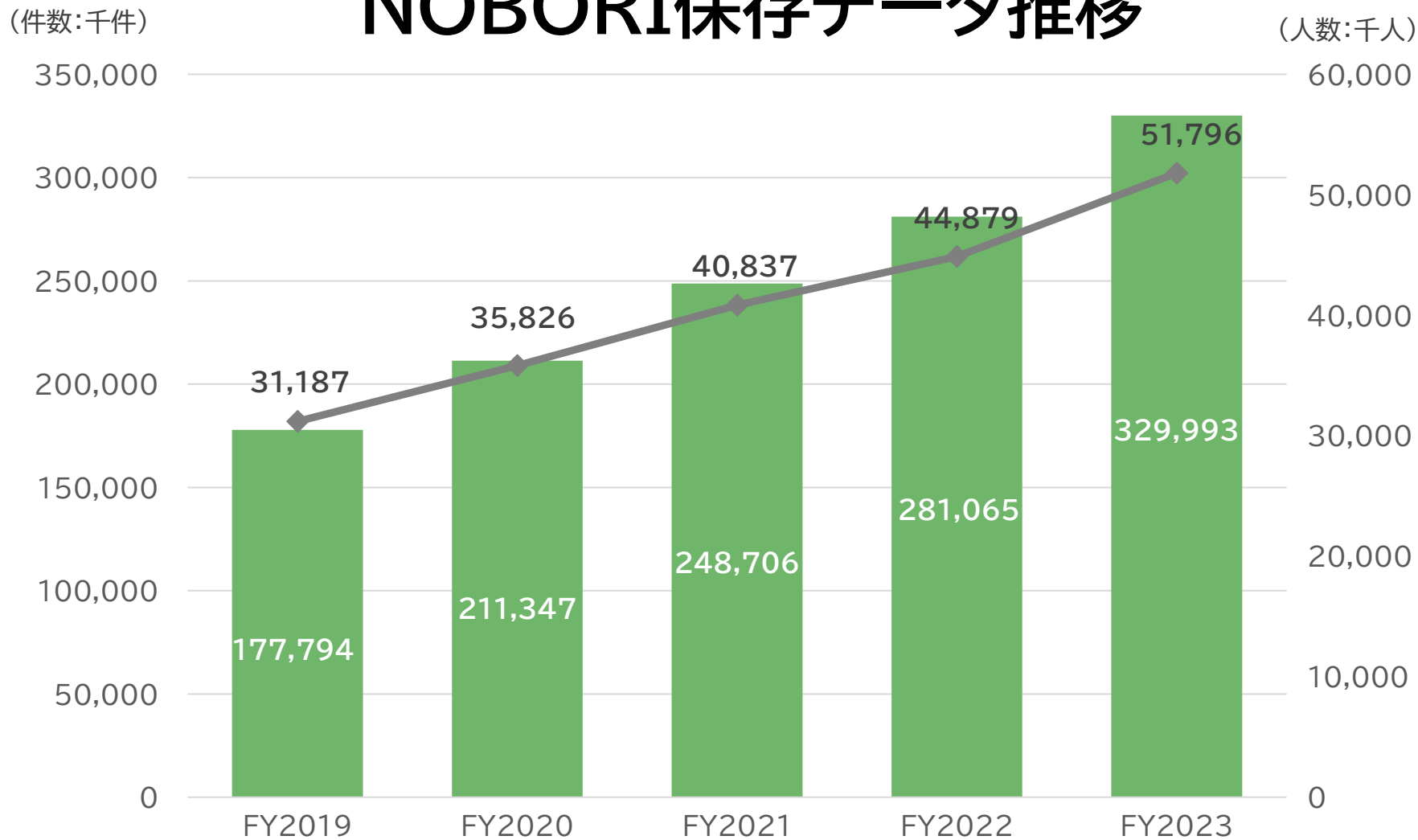
376,102,000

「NOBORI」に保存している検査件数

(2024年12月末時点)



NOBORI保存データ推移

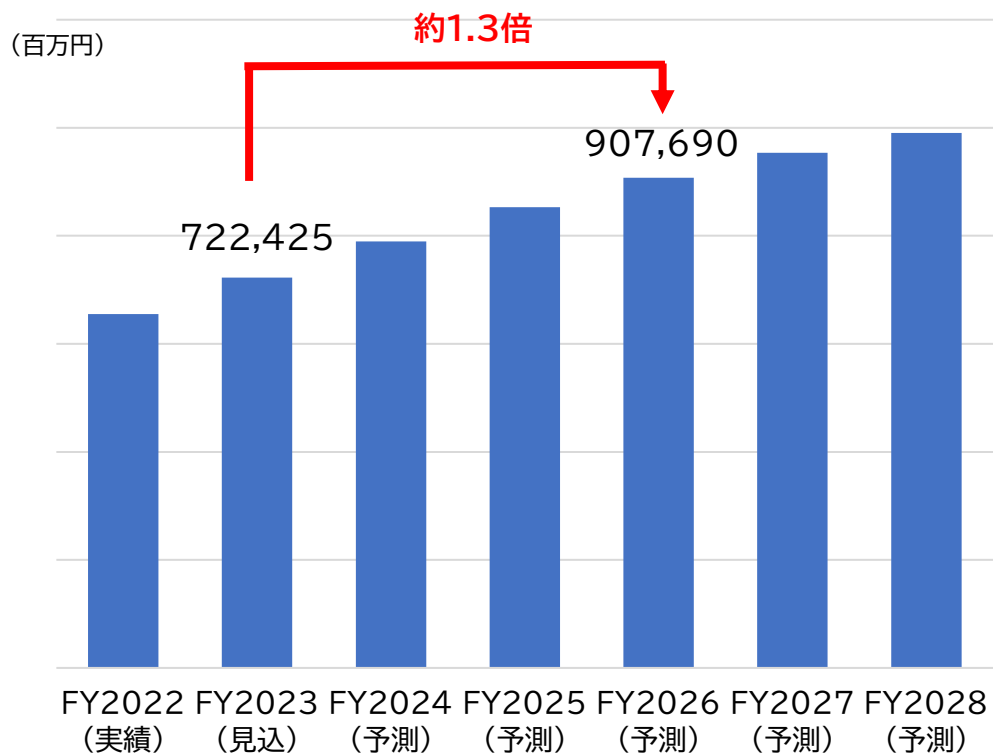


■「NOBORI」に保存する検査数(左目盛) ◆「NOBORI」に画像を保管している患者数(右目盛)

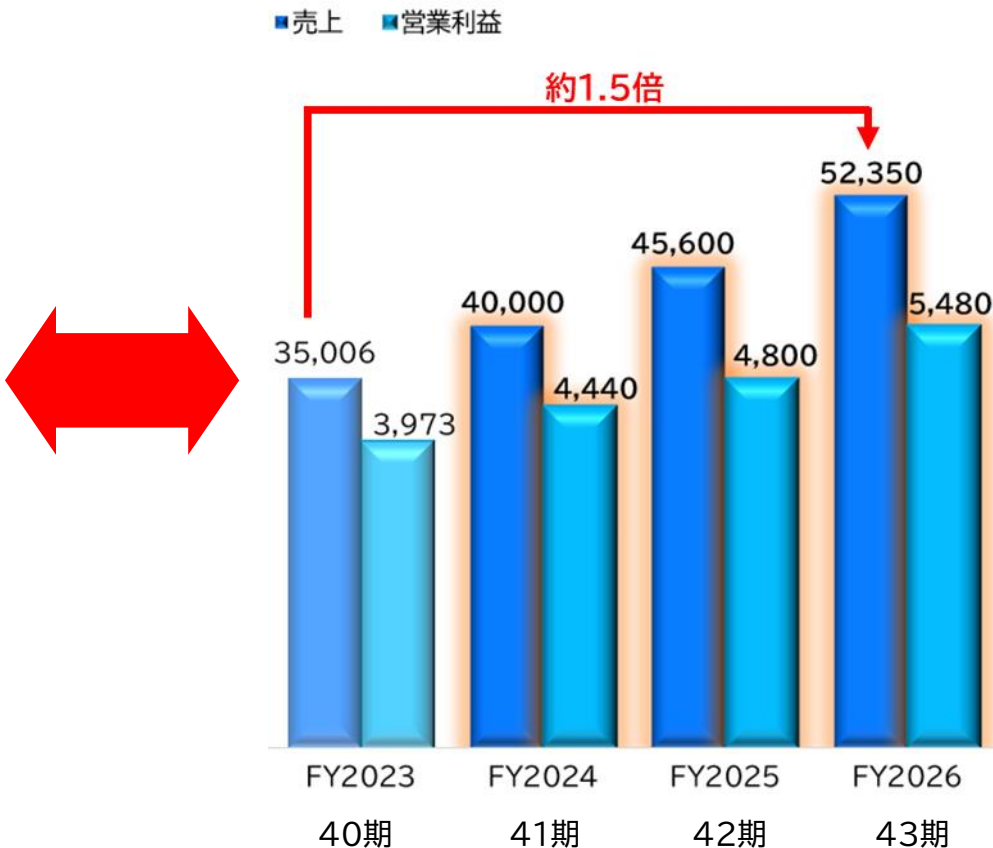


ネットワークセキュリティビジネスの市場は、今後も拡大が見込まれている

ネットワークセキュリティビジネスの国内市場予測



当社情報基盤事業の中期計画



出典:富士キメラ総研「ネットワークセキュリティビジネスの国内市場を調査」を基に作成
<https://www.fuji-keizai.co.jp/press/detail.html?cid=23140&la=ja>, (参照 2024-04-01)



当社の主な取引先である超大手・大手企業において
今後も継続的な投資が見込まれている

国内の企業規模別 ネットワークセキュリティ投資動向

	2022年度	2028年度予測	2022年度比
超大手	2,651億円	4,055億円	153.0%
大手	2,090億円	3,313億円	158.5%
中堅	1,183億円	1,707億円	144.3%
中小	627億円	830億円	132.4%

超大手、大手は、セキュリティ対策の取り組みに積極的であるため、投資額は順調に拡大している。サイバー攻撃の高度化や近年増えているセキュリティ事案による事業停止を防ぐため、今後も積極的な取組が想定される。

中堅、中小はセキュリティ対策への予算が限定されており、今後の投資額の伸びは超大手、大手を下回るとみられる。しかし、各業界で定められるセキュリティガイドラインに準拠するなど対応が進み堅調な伸びが期待される。

超大手:従業員数5,000名以上
 大手 :従業員数1,000~4,999名
 中堅 :従業員数300~900名
 中小 :従業員299名以下

出典:富士キメラ総研「ネットワークセキュリティビジネスの国内市場を調査」を基に作成
<https://www.fuji-keizai.co.jp/press/detail.html?cid=23140&la=ja>, (参照 2024-04-01)



パーソナルヘルスレコード（PHR）のソフトウェア、2027年の市場規模が1,320万米ドル到達予測

市場成長の要因

各国政府の取り組みの増加

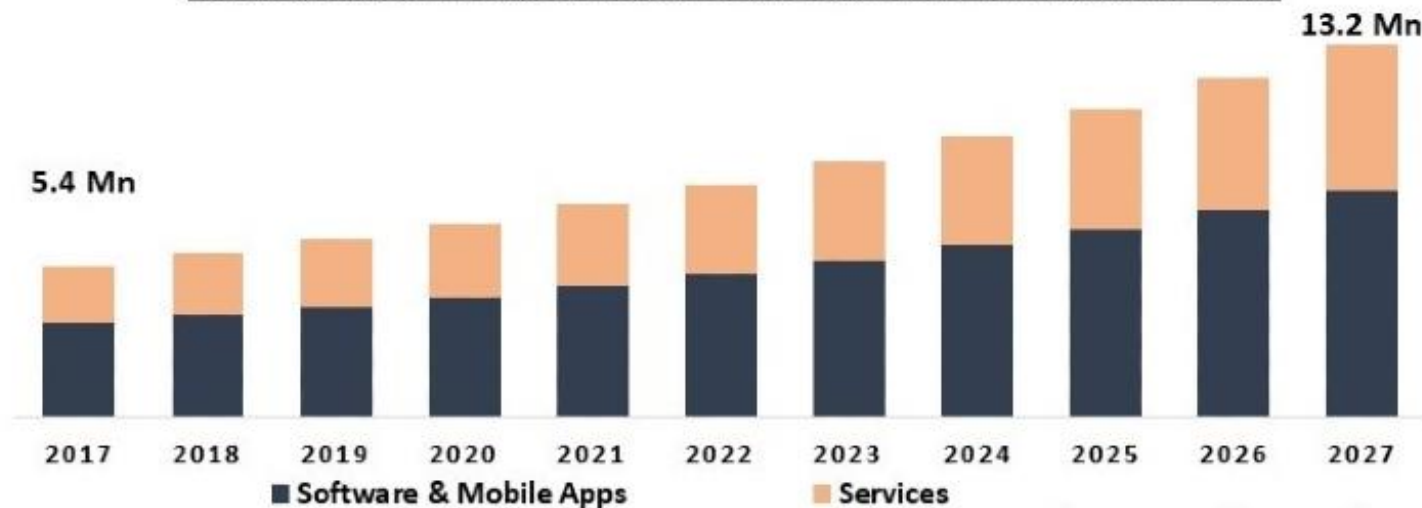
ヘルスケアのペーパーレス化を推進する政府の取り組みが各地域で活発化。医療機関を利用する際に複数の書類や処方箋を持ち歩く負担から、患者は個人用パーソナルヘルスレコードソフトウェアを選ぶようになっている。

ヘルスケア業界におけるデジタル化の進展

世界的にデジタル化が進んでおり、特にヘルスケア分野では、より高度でコンパクト、かつ利便性の高い技術やソリューションが求められている。PHRソフトウェアは、医師と患者の住所、患者のアレルギーなど、さまざまな情報を個人の健康記録を保持するのに役立ち、ヘルスケア管理を向上させる。

パーソナル健康記録ソフトウェアの世界市場（コンポーネント別）

Personal Health Record Software Market Size, By Component, 2017 - 2027



Source: www.kbvresearch.com

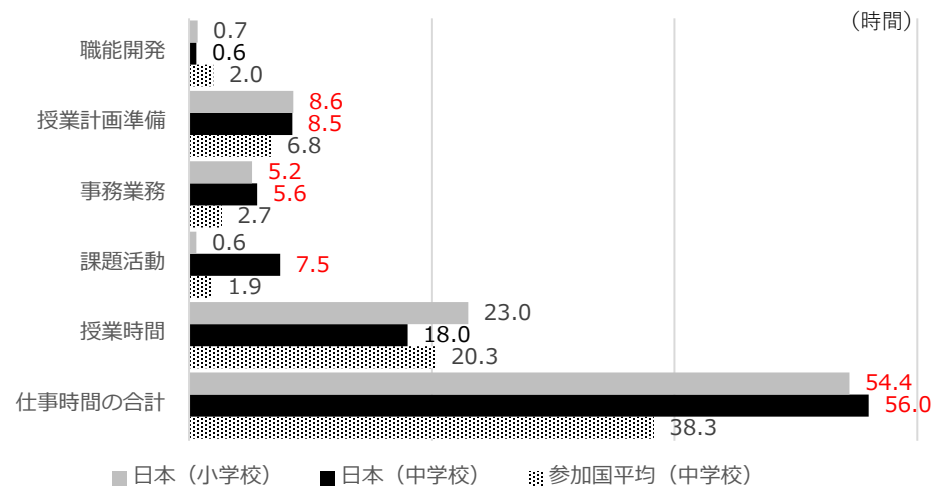
出典：株式会社グローバルインフォメーション

「パーソナル健康記録ソフトウェアの世界市場：コンポーネント別、アーキテクチャタイプ別、展開モード別、地域別展望、産業分析・予測（2021年～2027年）」（KBV Research）

Copyright (c) 2025 TechMatrix Corporation. All rights reserved.



教員の1週間あたりの仕事時間

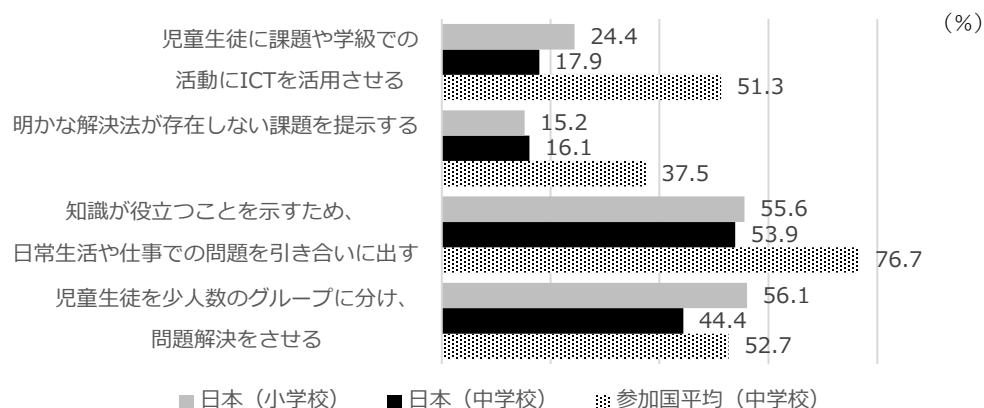


教員の仕事時間は参加国中で最も長く、人材不足感も大きい。

以下の項目は参加国中で最長時間を記録。

- ✓ 仕事時間
- ✓ 課外活動時間 (中学校)
- ✓ 事務業務

各指導実践を頻繁に行っている教員の割合



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善やICT活用の取組等が十分でない

※OECD (経済協力開発機構) の国際教員指導環境調査 (TALIS) は、教員及び校長を対象に、2008年から5年ごとに、教員及び校長の勤務環境や学校の環境に焦点を当てて実施。次回調査は2024年に実施予定。
 ※OECD加盟国等48か国・地域が参加 (初等教育は15か国・地域が参加)。

出典：国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 (OECD)



国内トップクラスの導入実績をもとにお客様に最適なサービスを提供



初受賞

・JAPAC Distributor Excellence Award
(2023, 2024)

7年連続受賞

・Distributor of the year
(2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024)

2年連続受賞

・Excellence in support of the year
(2018, 2019)



2021受賞

・MVP Partner of the year

2022受賞

・Most Dedicated Partner of the Year



2019~2021, 2023~2024受賞

Channel Services Delivery Excellence Award
(旧Services Delivery Excellence Awards)



4年連続受賞

・PARTNER OF THE YEAR
(2021, 2022, 2023, 2024)

2年連続受賞

・Deal registration of the year
(2022, 2023)



2022受賞

APJマーケティング・パートナー・オブ・ザ・イヤー

【その他受賞実績】

